用フルモノナル可シト雖モ予輩ノ思惟スル所ヲ以テスレハ本條ハ特ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ對シテハ敢テ本條ヲ適用シテ辨論ヲ停止スルニ及ハサルモノト信スルナリ何トナレハ此等ノ刑ニ該ル者ハ固ヨリ法律ヲ以テ代人ヲ出スヿヲ得レハナリ

本條痊癒ニ至ルマテ辨論ヲ停止ストアリ然テハ若シ被告人終身痊癒ノ目的ナキトキハ公訴ト並起リタル私訴ノ裁判モ亦同シク被告人ノ死去ニ至ルマテ停止セサルヲ得ス何トナレハ第六條ノ明文ヲ以テ「公訴ノ裁判ニ先テ私訴ノ裁判ヲ爲ス可カラス云々」ト規定セラレタレハナリ

第二百六十九條　禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人公判ノ日時ニ出廷セスト雖モ豫審終結ノ言渡書又ハ呼出狀ヲ本人ニ送達シタルノ証アルニ非サレハ闕席裁判ヲ爲ス可カラス

豫審終結ノ言渡書又ハ呼出狀ヲ本人ニ送達スルヿ能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニテ猶豫ノ期限ヲ定メ其期限内ニ被告人出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲スヘキノ告知書ヲ親属若クハ戸長ニ送達ス可シ

本條ハ我邦治罪ノ改良ノ其一ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ早速ニ闕席裁判ヲ爲ス可カラサルヿヲ定メタルモノナリ

第二百七十條　闕席シタル被告人ニ付テハ辨護人ヲ用フルヿヲ許サス但其親属故舊ハ被告人ノ出廷スルヿ能ハサルノ事由ヲ証明スルヿヲ得

裁判所ニ於テ其事由ヲ正當ナリトスル時ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判ヲ延期スルヿヲ得

闕席シタル被告人ハ自ラ辨護ノ利益ヲ拋棄シタルモノトシテ法律ハ辨護人ヲ用フルヿヲ許サヽルナリ

第二百七十一條　被告人中ノ一名又ハ數名出廷セスト雖モ出廷シタル者ニ付テハ通常ノ規則ニ從ヒ對審裁判ヲ爲スヘシ

本條ノ處分ハ固ヨリ當ニ然ラサルヘカラサル所ナリ

第二百七十二條　裁判長ハ公廷ニ於テ諸般ノ取締ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

稱讚誹謗其他辨論ヲ妨碍スル者アル時ハ之ヲ制止シ又ハ退廷セシムルヿヲ得

本條第二項ハ傍聽人ノ或ハ稱讚誹謗其他辨論ヲ妨礙スル者アランヿヲ慮リテ設ケタルモノナリ

治〇第二百六十九條ヨリ〇第二百七十二條マテ

第二百七十三條　公廷ニ於テ輕罪違警罪ヲ犯シタル者アル時ハ其身分ノ如何ニ拘ハラス裁判長ノ命令ニ因リ之ヲ取押ヘ檢察官ノ意見ヲ聽キ直チニ裁判ヲ爲シ又ハ次ノ公判ニ付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

書記ハ犯罪ノ事件及ヒ裁判長ノ處分ニ付キ即時ニ調書ヲ作ルヘシ

本條ノ明文「其身分ノ如何ニ拘ハラス」トアルヲ以テ高等法院又ハ陸海軍裁判所ニ屬スヘキ者ト雖ヒ公廷ニ於テ輕罪違警罪ヲ犯シタル者アル時ハ都テ本條ニ從テ之ヲ處分スルモノトス而シテ若シ被告人本條ノ罪ヲ犯シタル時ハ本案ノ事件ト共ニ數罪俱發ノ例ニ照シテ之ヲ處斷スルモノトス」第二項ハ現行犯ニ係ハルヲ以テ書記ノ務メ斯クハ規定セリ

第二百七十四條　前條ノ場合ニ於テ違警罪裁判所ニテハ違警罪ニ付終審ノ裁判ヲ爲スヘシ輕罪裁判所其他上等ノ裁判所ニテハ輕罪ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス可シ

抑モ公廷內ノ犯罪ハ他ノ犯罪ト異ナリ現行犯ノ最モ著明ナルモノニシテ其見證人ハ即チ法官ナリ故ニ事實ニ於テ毫モ錯誤ナク決シテ裁判ニ過誤アル可キノ道理ナシ且ツ此犯罪タルヤ最モ急速ヲ要スルモノナルニ因リ例外法ヲ設ケタルナリ

第二百七十五條　公廷ニ於テ重罪ヲ犯シタル者アル時ハ裁判長被告人及ヒ證人ヲ訊問シ調書ヲ作リ裁判ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ通常ノ規則ニ從ヒ裁判スル爲メ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百七十六條　裁判ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲スヘカラス但辨論ニ因リ發見シタル事件及ヒ公廷內ノ犯罪ニ付テハ此限ニ在ラズ

若シ附帶ノ事件ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスル時ハ本案ノ裁判ヲ停止スルヿヲ得

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百七十七條　檢察官被告人及ヒ民事擔當人ハ始審終審ヲ問ハス本案ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理スヘカラサルノ申立ヲ爲スヿヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理スヘカラサルノ言渡ヲ爲スヿヲ得

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第二百七十八條　裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ棄却シタル時ハ本案ノ裁判言渡ヲ待タス直チ

治〇第二百七十三條ヨリ〇第二百七十八條マテ

○第二百七十八條　○第二百七十九條

控訴又ハ上告ヲ爲スヿヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止ス

控訴上告ヲ爲シタル場合ニ於テハ其裁判ノ孰レニ歸着スルヤヲ知ル可ラス故ニ本案ノ辯論ヲ繼續スルモ終ニ無益ニ屬スルノ恐レアリ是レ控訴上告ノアリタル場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止スル所以ナリ

第二百七十九條　檢察官其他訴訟關係人ハ第二百三十七條ニ定メタル原由アル時ハ違警罪裁判所輕罪裁判所控訴裁判所又ハ重罪裁判所ノ裁判官及ヒ書記ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲スヿヲ得

豫審ヲ爲シタル裁判官其公判ニ干預シ又ハ始審裁判ヲ爲シタル裁判官其終審裁判ニ干預シタル時亦同シ

既ニ豫審ニ於テ裁判官及ヒ書記ヲ忌避スルヿヲ得ルノ場合アリトセハ公判ニ於テモ亦從テ裁判官及ヒ書記ヲ忌避スルノ場合ナカル可ラサルモノトス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ但シ本條各裁判所ヲ列記スル中高等法院及ヒ大審院ヲ記サヽルヲ以テ其兩院ニ於テハ裁判官及ヒ書記ヲ忌避スルノ申立ヲナスヿヲ得サルモノト見ヘタリ

第二百八十條　忌避ノ申立ハ本案ノ裁判言渡ニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ爲スヿヲ得忌避ノ申立アリタルトキハ本案ノ辯論ヲ停止ス

彼ノ豫審ニ於テハ證據ノ湮滅スル等ノ恐レアルヲ以テ忌避ノ申立アリタル時ト雖ヒ尚ホ且ツ其手續ヲ停止セサレヒ此ノ公判ニ於テハ豫審ト異ナリ證據ノ湮滅スル等ノ恐レナク又其嘗テ爲シタル所ノ手續ノ或ハ無効ニ歸スルヿアル可キヲ以テ忌避ノ申立アリタル時ハ本案ノ辯論ヲ停止スルモノトス

第二百八十一條　忌避又ハ回避ノ申立及ヒ其判決ヲ爲スコハ第二百三十八條ヨリ第二百四十五條マテニ定メタル規則ニ從フ

本條ハ讀者ニ於テ第二百三十八條ヨリ第二百四十五條迄ノ諸條ヲ參看スレハ則チ足レリ

第二百八十二條　忌避又ハ回避ノ申立ヲ棄却シタル時ハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シタル時ハ前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ニ變災厄難ノ爲メ訴訟手續ヲ停止シタル時亦同シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

治○第二百七十九條ヨリ○第二百八十二條マテ

第二百八十三條　公判ニ於テ用フヘキ証據ハ豫審ニ於テ用フヘキ証據ニ同シ

世ノ註釋家或ハ曰ク豫審ノ時証據トシタルモノハ公判ニ於テモ亦之ヲ証據トシ豫審ニ於テ証據トセサルモノハ公判ニ於テモ亦之ヲ証據トセス是レ或ハ然ラン然レトモ若シ豫審ノ時ニ証據トシタル者ハ未タ充分ナルモノニ非ラサリシニ其後公判ノ時ニ至テ始メテ充分ナル証據ノ出テ來リタルノ場合ニ於テハ之ヲ如何スルヤ豫審ノ時ニ當テ證據トセサルノ故ヲ以テ之ヲ証據トスルヲ能ハスト云フヲ得可キヤ否ヤ假令豫審ノ時ニ當テ証據ニ用ヒサルモノト雖モ其公判ノ時ニ至テ始メテ發見シタル証據ハ之ヲ用ヒテ更ニ差支ナキモノトス若シ夫レ豫審ノ時ニ用ヒタル証據ノ外ハ公判ノ証據ト爲スニ足ラストセハ公判ハ豫審ノ範圍中ニ在テ獨立ノ性質ナキモノト云フヘシ畢竟公判ハ豫審ノ奴隷ニシテ其指揮ヲ奉スルモノト謂ハサルヲ得ス嗚呼豈ニ其レ然ランヤ公判ハ却テ豫審ヲ左右スルノ權力ヲ有スルモノナリ或ル註釋家ノ如キハ一タヒ出ル証據ヲ重スルニ過キテ事實ノ如何ハ敢テ意トセサル者ナリ若シ夫レ事實ノ如何ヲ意トスルモノトセハ後チニ出テタル証據ニシテ充分眞實ナランニハ之レニ據ラサル可ラサルナリ夫レ証據ハ一時ニ悉皆出ツルト必

ツ難シ或ハ一月ヲ經テ現ハルヽモノアリ或ハ一年ヲ過キテ出ツルモノアリ或ハ五年十年ノ後チニ至テ始メテ發見スルモノアリ嗚呼誤解ヲ施セル註釋家ニ本條ノ意義ハ公判ニ於テ用フ可キ証據ハ豫審ニ於テ用ヒタル所ノ証據ヲ用フ可シト云フニ在リテ其深義假令豫審ニ用ヒサルモノナリト雖モ若シ充分信ヲ措クニ足ル可キ所ノ証據アランニハ又之ヲ用フヘシトニ在リ嗚呼其註釋家ニ一タヒ出テタル証據ノ爲メニ何テモ漢テモ事實ヲ其レニ當テハメルト云フノ誤解ヲ去レヨカシ

第二百八十四條　裁判長ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ豫審中管轄官吏ノ作リタル調書及ヒ檢証書類ヲ朗讀セシムルヲ得

是等ノ書類ハ原從証人ノ陳述ト同一ノ効ヲ有ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百八十五條　調書ヲ作リタル司法警察官ハ檢察官其他訴訟關係人ニリ証人トシテ之ヲ呼出シ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ呼出スヲ得

豫審判事ハ裁判所ノ職權ニ因リ又ハ檢察官其他訴訟關係人ニリ其裁判所ノ允許ヲ得テ調書

治〇第一百八十三條〇第二百八十四條〇第二百八十五條

第〇條 第二百八十三條〇第二百八十四條〇第二百八十五條

說明ノ爲メ之ヲ呼出スコトヲ得

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百八十六條 豫審ニ於テ訊問シタル証人ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得

豫審ニ於テ錄取シタル証人ノ陳述書ハ更ニ其証人ヲ呼出サヽル時証人呼出ヲ受ケ出廷セサル時又ハ豫審及ヒ公判ニ於テ其ノ陳述ヲ比較スヘキ時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルコトヲ得

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第二百八十七條 第百七十八條以下ノ規則ハ公判ノ証人ニモ亦之ヲ適用ス

本條ハ唯タ讀者ニ於テ第百七十八條以下ノ諸條ヲ參看スレハ則チ足レリ

第二百八十八條 証人ハ互ニ言語ヲ接スヘカラス又陳述前辯論ニ立會フヘカラス

証人互ニ言語ヲ接シ又ハ其陳述前辯論ニ立會ハシムル時ハ甲乙雷同シ終ニ事實ヲ掩蔽スルヲ恐レアリ是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第二百八十九條 証人ハ左ノ順序ニ從ヒ訊問ス可シ

一 檢察官ノ請求ニ因リ呼出シタル証人

二 民事原告人ノ請求ニ因リ呼出シタル証人

三 被告人及ヒ民事擔當人ノ請求ニ因リ呼出シタル証人

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百九十條 証人數名アルトキハ氏名目錄ノ順序ニ從ヒ之ヲ訊問スヘシ但裁判長ハ証人ヲ呼出シタル者ノ意見ヲ聽キ其順序ヲ變更スルコトヲ得

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百九十一條 証人及ヒ被告人ハ裁判長ニ非サレハ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

陪席判事及ヒ檢察官ハ裁判長ニ告ケ証人及ヒ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

訴訟關係人ハ辯論ニ必要ナリトスル條件ヲ分明ナラシムル爲メ証人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ求ムルヲ得

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第二百九十二條 証人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ者ト思料シタ

治〇第二百八十六條ヨリ〇第二百九十二條マテ

治〇第二百九十二條〇第二百九十三條

ル時ハ裁判所ニ於テ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ勾引狀ヲ以テ豫審判事ニ送致スヘキノ言渡ヲ爲スヘシ

其証人ノ陳述ハ書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致スヘシ

本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ事件ニ付キ裁判ノ延期ヲ言渡スコトヲ得

証人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テタルトキハ即チ刑法第二百十八條及ヒ第二百二十條ニ定メタル被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ僞証ヲ爲シタル者又ハ被告人ヲ陷害スル爲メ僞証ヲ爲シタル者ヲ云フナリ

本條ノ罪ハ即チ現行犯タルヲ以テ假令檢察官其他訴訟關係人ノ請求ナシト雖ヒ裁判所ハ其職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ勾引狀ヲ以テ豫審判事ニ送致スヘキ言渡ヲ爲スコトアルモノトス而シテ本條ハ公廷内ノ犯罪ニ屬スレハ直チニ公判ヲ開ク可キモノヽ如シト雖ヒ未タ其事實判然タラス唯証人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタルマテナレハ其果シテ犯罪ト爲ル可キヤ否ヤノ點ニ至テハ未タ明瞭ナラス故ニ之ヲ豫審判事ニ送致シ其罪ノ有無ヲ査定セシムルモノトス

第二百九十三條　証人呼出ニ應セサル時ハ裁判所ニ於テ即時ニ檢察官ノ意見ヲ聽キ左ノ科料罰金ヲ言渡スヘシ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ請サス

一、違警罪事件ニ付テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二、輕罪以上ノ事件ニ付テハ二圓以上十圓以下ノ罰金

被告人闕席シタル時ハ其呼出シタル証人出廷セスト雖ヒ科料罰金ヲ言渡スヘカラス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百九十四條　前條ノ言渡書ハ即時ニ書記ヨリ本人ニ送達スヘシ

其言渡ヲ受ケタル者三日内ニ出廷スルニ能ハサリシ正當ノ事由ヲ証明シタル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ科料又ハ罰金ノ言渡ヲ取消スヘシ但重罪裁判所閉廳ノ後ハ其開廳シタル裁判所ニ其申立ヲ爲スヘシ

本條ノ處分ハ檢察官ノ意見ヲ聽キトアルヲ以テ若シ檢察官ノ意見ニテ其言渡ヲ取消ス可カラスト云フ時ハ之ヲ取消サヽルヲアルヘシ

治〇第二百九十三條〇第二百九十四條

治〇第二百九十三條〇第二百九十四條

第二百九十五條　証人呼出ニ應セサルトキハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ公判ヲ延期スルノ言渡ヲ爲スヿヲ得

檢察官自ラ其請求ヲ爲サヽルトキハ公判ノ延期ニ付キ意見ヲ陳述スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百九十六條　証人再度ノ呼出ヲ受ケ仍ホ出廷セサル時ハ檢察官ノ意見ノ聽キ前ニ定メタル科料罰金ノ二倍及ヒ再度ノ呼出ノ費用ヲ言渡スヘシ此場合ニ於テモ亦前條ニ從ヒ再ヒ公判ヲ延期スル事ヲ得但延期シタル時ハ其証人ニ對シ勾引狀ヲ發スヘシ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百九十七條　第百九十二條以下ノ規則ハ公判ニ於テ新ニ命シタル鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス但呼出ニ應セサル時ハ第二百九十三條ノ規則ニ從ヒ處分スヘシ

鑑定人ノ鑒定シタル事件ニ付キ說明ノ爲メ更ニ之ヲ呼出ス時ハ証人ニ付キ定メタル前數條ノ規則ニ從ヒ處分ヲ可シ

本條モ亦同ジク註釋ヲ要セス

第二百九十八條　被告人聾者啞者又ハ國語ニ通セサル者ナル時ハ第百五十六條第百五十七條ノ規則ニ從フ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百九十九條　被告人數名アル時ハ裁判長其意見ヲ述ヘ且檢察官其他訴訟關係人ノ意見ヲ聽キ訊問ノ順序ヲ定ムヿヲ可シ

裁判長ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ職權ヲ以テ其順序ヲ變更スルヿヲ得

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百條　証憑調濟ノ後檢察官民事原告人被告人其辯護人及民事擔當人ハ順次發言ス可シ

檢察官其他訴訟關係人ノ陳述ハ他ヨリ妨礙スルヿヲ得ス

檢察官其他訴訟關係人ハ迭ヒニ辯論ヲ爲スヿヲ得但辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ發言セシムヿヲ可シ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百一條　檢察官公訴ヲ拋棄スト雖モ裁判所ニ於テハ本案ニ付キ相當ノ裁判ヲ爲ス可シ

治〇第二百九十五條ヨリ〇第三百一條マテ

治〇第二百六十五條ニ〇第二百一條ヲ

私訴ハ第二條ニ以テ被害者ニ屬スト規定シタルヲ以テ其被害者ニ於テ其權ヲ拋棄スル時ハ裁判所ハ敢テ繼續シテ之レヲ裁判ヲ爲スヿヲ得スト雖モ公訴ハ第一條ヲ以テ檢察官之ヲ行フト記シ敢テ檢察官ニ屬スト云ハス是レ公訴ハ固ト社會ニ屬シテ檢察官ニ屬セス檢察官ハ唯タ社會ノ名代人トシテ之ヲ行フニ過キサルモノナレハ檢察官ハ漫リニ公訴ヲ拋棄スルヿヲ得サルモノトス故ニ檢察官一旦公訴ヲ爲シテ而シテ後ヲ中途ニシテ之ヲ拋棄スト雖モ裁判所ニ於テハ倘ホ本案ニ付キ相當ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス

第三百二條　辯論中公判ノ手續ニ付キ異議ノ申立アリタル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ直チニ之ヲ判決スヘシ但其判決ニ對スル控訴又ハ上告ハ本案ノ裁判言渡アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百三條　民事擔當人ハ始審終審ヲ問ハス何時ニテモ其訴訟ニ關係スルヿヲ得

又民事原告人ハ民事擔當人ヲシテ其訴訟ニ關係セシムルヿヲ得

若シ異議ノ申立アリタル時ハ其裁判所ニ於テ之ヲ判決スヘシ其判決ニ對シテハ本案ノ裁判言渡ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スヿヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辨論ヲ停止ス

本條ハ事項多岐ニ渉ルト雖モ敢テ註釋ヲ用ヒスシテ其義既ニ判然タリ

第三百四條　裁判所ニ於テ刑人言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示シ且一切ノ證憑ヲ明示スヘシ

免許ノ言渡ヲ爲スニ付テモ亦同シ

本條ハ公明正大實ニ斯クアラサル可ラサルナリ

第三百五條　無罪ノ言渡ヲ爲スニハ其理由トシテ被告人ニ對シ犯罪ノ証憑ナキヿヲ明示スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百六條　裁判所ニ於テハ公訴ノ裁判ト同時ニ私訴ノ裁判言渡ヲ爲ス可シ

私訴ニ付キ取調未タ充分ナラサル時ハ公訴ノ裁判アリタル後其裁判言渡ヲ爲スヿヲ得

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百七條　被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴裁判費用ノ全部又ハ

治〇第二百二條ニ〇第三百七條マテ

幾分ヲ擔當スヘキノ言渡ヲ爲スヘシ

免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴裁判費用ハ官ニテ之ヲ擔當スヘシ

私訴裁判費用ハ民事ノ規則ニ從ヒ敗訴シタル者之ヲ擔當スヘシ

本條ニ就テハ刑法第四十五條ヲ參看スヘシ

第三百八條　被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルト否トヲ問ハス沒收ニ係ラサル差押物品ハ所有主ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百九條　本案ノ裁判言渡ニ對スル上訴ノ期限内又上訴アリタル時ハ其判決アルマテ裁判執行ヲ停止ス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百十條　禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタル時ハ現ニ捕ニ就クニ非サレハ上訴ヲナスヿヲ得ス

本條ハ固ヨリ當ニ然ラサルヘカラサル所ナリ

第三百十一條　勾留ヲ受ケタル者上訴ヲ爲シ又ハ保釋ヲ求ムル時ハ其申立書ヲ監獄長ニ差出シ監獄長ヨリ之ヲ其裁判所ノ書記ニ差出スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百十二條　訴訟關係人又ハ其代人非常ノ變災厄難ニ因リ上訴期限ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ證明シタル時ハ期限ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルヿヲ得但變災厄難ヲ免レタルニ通常ノ期限内ニ其證據ヲ申立書ニ添ヘ上訴ヲ爲スヘシ

本條ハ固ヨリ當ニ然ラサルヘカラサル所ナリ

第三百十三條　書記ハ速ニ前條ノ申立書ヲ對手人ニ送達ス可シ對手人ハ三日内ニ答辨書ヲ差出スヿヲ得

上訴ヲ判決ス可キ裁判所ニ於テハ會議局ニテ檢察官ノ意見ヲ聽キ先ツ其上訴ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

上訴ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ書記ヲシテ其旨ヲ訴訟關係人ニ通知セシメ通常ノ規則ニ從ヒ本案ノ裁判ヲ爲ス可シ

治〇第三百八條ヨリ〇第三百十三條マテ

上訴ヲ受理スヘカラサル者ハ判決シタル日ハ他ノ原由アルニ非サレハ即時ニ裁判執行ヲ爲サシムヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百十四條　裁判言渡ハ辯論ヲ終リタル後公廷ニ於テ即時ニ之ヲ爲シ又ハ次日ニ之ヲ爲スヘシ

裁判言渡書ハ其言渡前裁判官之ヲ作リ書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判言渡書ニハ其言渡ヲ爲タル裁判年月日其事件ニ干預シタル檢察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百十五條　訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ裁判言渡書ノ謄本又ハ其抜書ヲ求ムルヿヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタル日ハ書記ヨリ二十四時內ニ之ヲ下付スヘシ

△參看　明治十四年十二月二日司法省甲第七號達

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其抜書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事

△明治十四年十二月司法省丁第三十一號達

本年(本月)甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ抜書ヲ求ムル者代價ノ儀無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限リ無代價ニテ下渡スモ不苦儀ト可心得此旨相達候事

△明治十五年三月廿七日司法省丙第十二號達

明治十四年(十二月)當省甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ其抜書ヲ下付スル費用ハ當分違警罪ニ限リ徵收セサル樣取計ヘシ其旨相達候事

本條ハ參看布達ヲ以テ其義既ニ判然タリ

第三百十六條　對審裁判ニ因リ刑ノ言渡アリタル時ハ裁判長ヨリ其言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其言渡ニ對シ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ得可キヿ及ヒ其期限ヲ告知シ又闕席裁判ニ因リ刑ノ言渡アリタル時ハ其言渡ニ對シ故障ヲ爲スヲ得可キヿ及ヒ其期限ヲ言渡書ニ記載スヘシ

若シ其告知又ハ記載ナキ時ハ通常ノ規則ニ從ヒ其告知アルマテ上訴期限ノ經過ヲ停止ス

本條ハ頗ル錯雜セリト雖モ能ク之ヲ熟讀スルニ於テハ敢テ註釋ヲ要セス

治〇第三百十四條〇第三百十五條〇第三百十六條

○第三百十四條○第三百十五條○第三百十六條

第三百十七條　書記ハ各事件ニ付キ各別ニ公判始末書ヲ作リ左ノ條件其他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

一、裁判ヲ公行シタルヿ又ハ傍聽ヲ禁スルノ言渡アリタルヿ及ヒ其事由

二、被告人ノ訊問及ヒ其陳述

三、証人鑑定人陳述及ヒ宣誓ヲ爲シタルヿ若シ宣誓ヲ爲サスル時ハ其事由

四、原被ノ証據物件

五、辯論中異議ノ申立アリタルヿ後日ヲ期シテ申立ツ可キ事件ヲ申立タルヿ是等ノ事件ニ付キ檢察官其他訴訟關係人ノ意見及ヒ裁判所ノ判決

六、辯論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ發言セシメタルヿ

本條ハ若シ上訴アリタル時上級ノ裁判所容易ニ取調ヲ爲スノ用ニ供スルモノトス

第三百十八條　公判始末書ニハ前條ニ記載シタル條件ノ外言渡ヲ爲シタル裁判所年月日裁判長陪席判事檢察官及ヒ書記ノ氏名ヲ記載スヘシ

辯論數日ニ渉ルトキハ其旨及ヒ同一ノ裁判官出席シタルコトヲ記載スヘシ

辯論中豫備判事ヲシテ代ラシメタル時ハ其旨ヲ記載スヘシ檢察官及ヒ書記ニ付テモ亦同シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百十九條　公判始末書ハ裁判言渡ヨリ三日内ニ之ヲ整頓シ裁判長及ヒ書記署名捺印スヘシ

裁判長ハ署名捺印セサル以前ニ公判始末書ヲ檢閲シ若シ意見アル時ハ其紙尾ニ記載スヘシ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百二十條　裁判言渡書及ヒ公判始末書ノ正本ハ其裁判所ノ書記局ニ保存スヘシ上訴アリタル時ハ裁判長及ヒ書記裁判言渡書及ヒ公判始末書ノ謄本ニ認印シ之ヲ上訴書類ニ添ヘシ

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

○第二章　違警罪公判（凡二十六條）

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百二十一條　違警罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

治○第三百十七條ヨリ○第三百二十一條マテ

第三百二十一條　○第三百二十一條ヲ[illegible]

檢察官ノ請求ニ因リ書記局ニ於テ被告人ニ對シ發シタル呼出狀

二　豫審判事及ヒ上等ノ裁判所ハ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

凡ソ裁判所ハ辨論ニ因リ獲見シタル附帶ノ事件及ヒ公廷內ノ犯罪ヲ除クノ外ハ規則ニ從ヒテ訴訟ヲ受クルニ非ラサレハ事件ノ審理ヲ爲スヿヲ得サルヲ以テ原則トス故ニ今本條ハ違警罪裁判所ノ訴ヲ受クルノ場合ヲ定メタルモノナリ

第三百二十二條　呼出狀ニ指呼出ヲ受ケシ可キ者ノ氏名職業住所出廷ノ日時被告事件及ヒ代人ヲシテ出廷セシムル事ヲ得可キ旨ヲ記載ス可シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人ヲシテ其証人ヲ呼出サシムル時ハ公廷ニテ其事件ノ告知ヲ受ケタル後其呼出及ヒ辨護ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルヿヲ得[illegible]

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百二十三條　呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アルヘシ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百二十四條　違警罪裁判官ハ被告事件急速ヲ要スル時公判ニ取掛ル前檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又職權ヲ以テ對手人ノ立會ヲ要セスシテ檢証處分ヲ爲スヿヲ得

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第三百二十五條　書証人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出スヘシ

又呼出ヲ受ケスシテ出廷シタル者ト雖モ訊問前其名刺ヲ書記ニ差出シタル時ハ裁判所ニ於テ証人トシテ其陳述ヲ聽クヿヲ得

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第三百二十六條　書記ハ各事件毎ニ訴訟關係人ノ氏名ヲ呼立ツヘシ若シ其呼立ニ應セサル時ハ他ノ事件ノ裁判ヲ終リタル後其事件ヲ裁判スヘシ

本條ハ訴訟關係人ノ遲參ヲ慮リ務メテ開席裁判ヲ爲サハラシカ爲メニ設ケタルモノナリ

第三百二十七條　違警罪裁判官ハ最初ニ被告人ノ氏名年齡身分職業住所出生ノ地ヲ問フヘシ

官吏ノ作リタル調書又ハ申立書アル時ハ書記之ヲ朗讀スヘシ

治○第三百廿二條ヨリ○第三百廿七條マテ

檢察官ノ被告事件ヲ陳述ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百二十八條　違警罪裁判官ハ被告人ニ被告事件ヲ承認スルヤ否ヲ訊問ス可シ

若シ被告人代人ヲ以テ白狀ヲ爲ストキハ其署名捺印シタル書面ヲ差出ス可シ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百二十九條　被告人ノ白狀アリタル時ハ他ノ証憑ヲ差出スニ及ハス但裁判所ニ於テハ檢察官民事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ差出サシムル事ヲ得

若シ白狀ナキ時ハ原被ノ証人ヲ訊問シ其他証憑アル時ハ之ヲ差出スヘシ

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第三百三十條　檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述スヘシ

民事原告人ハ被害事件ヲ証明シ及ヒ要償ニ付キ意見ヲ陳述スヘシ

被告人民事擔當人又ハ其代人ハ答辯ヲ爲スヘシ

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第三百三十一條　呼出ヲ受ケタル被告人民事擔當人又ハ其代人出廷セサルトキハ檢察官及ヒ民事原告人ノ請求スル所ヲ聽キ闕席裁判ヲ爲スヘシ

民事原告人出廷セサル時亦同シ

本條以下ハ闕席裁判ニ關スル規則ヲ示シタルモノナリ

第三百三十二條　闕席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ闕席シタル者亦ハ其住所ニ之ヲ送達ス可シ

闕席裁判ヲ受ケタル者故障ヲ爲サントスルトキハ言渡書ノ送達アリタルヨリ三日內ニ其申立書ヲ書記局ニ差出スヘシ

闕席裁判ニ對シテハ故障ノ申立ヲ許スヲ以テ其言渡書ハ闕席シタル者又ハ其住所ニ之ヲ送達セサル可ラス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第三百三十三條　裁判所ニ於テハ先ツ故障ノ申立ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ若シ受理ス可キ者ト判決シタルトキハ書記ヨリ故障アリタルヿ及ヒ其事件ヲ公判ニ付スヘキ日時ヲ故障ノ對手人ニ通知スル爲メ呼出狀ヲ送達スヘシ但其送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫

治〇第三百廿八條ヨリ〇第三百卅三條マテ

第○第三百廿八條ヨリ○第三百廿三條マテ

アルヘシ[illegible]人ニ[illegible]出[illegible]

又公判ニ付スヘキ日時ヲ其前日ニ故障ノ申立人ニ報知スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百二十四條　故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ第三百二十六條ニヨリ第三百三十條マテノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

其裁判ニ闕席シタル者ハ故障ヲ爲スヿヲ得ス

故障ノ裁判ニ闕席シタル者ハ其申立人ナルト對手人ナルトニ論ナク再ヒ故障ヲ爲スヿヲ許サス蓋シ故障ノ裁判ニ對シテ復タ故障ノ申立ヲ許ス時ハ其底止スル所ナキヲ以テナリ

第三百三十五條　犯罪ノ証憑充分ナラサルトキハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免許ノ言渡ヲ爲スヘシ

本條ニ就テハ讀者自ラ第二百二十四條第三以下ヲ參看スレハ則チ足レリ

第三百三十六條　被告事件違警罪ニシテ且証憑充分ナルトキハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス[illegible]

第三百三十七條　被告事件重罪又ハ輕罪ナルトキハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ其事件ヲ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ但被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルヿヲ得

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス[illegible]

第三百三十八條　違警罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ控訴スルヿヲ得

一　被告人ハ拘留ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時

二　民事原告人被告人及ヒ民事搬當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上治安裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時

三　檢察官其他訴訟關係人ハ法上ニ記載シタル原由アラサル時ト雖ヒ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

△參看　明治十四年九月第四十五號布告

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲ス者アルトキハ原裁判所ニ於テ其訴訟費用ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムヘシ若シ豫納スルヿ能ハサルトキハ控訴又ハ

治○第三百卅四條ヨリ○第三百卅八條マテ

治〇第三百卅八條ヨリ〇第三百卅八條マテ

上告ヲ爲スヲ許サス擬律ノ錯誤ヨハ法律ノ適用ヲ誤リタルヲ云ナリ其他敢テ註釋ヲ要セス

第三百三十九條　控訴ヲ爲サントスル者ハ原裁判所ノ書記局ニ其申立書ヲ差出スヘシ但其申立ノ期限ハ對審裁判ヲ付ヲハ言渡ヨリ三日内又闕席裁判ニ付故障アラサルトキハ本人又ハ其住所ヲ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

控訴ヲ爲スノ申立アリタルトキハ書記ヨリ其旨ヲ對手人ニ通知ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百四十條　訴訟ニ關スル一切ノ書類ハ檢察官ヨリ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記局ニ之ヲ送致スヘシ

若シ檢察官控訴ノ申立人又ハ對手人ナル時ハ控訴ヲ受クヘキ裁判所ノ檢察官ニ其意見書ヲ差出スヘシ

本條ニ所謂控訴ヲ受クヘキ裁判所即チ違警罪ノ控訴ヲ受クヘキ裁判所ハ輕罪裁判所ノ謂ナリ

第三百四十一條　控訴ヲ受クヘキ裁判所ニ於テハ書記局ヨリ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ

呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

証人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百四十二條　控訴ノ對手人ハ其裁判言渡アルマテ何時ニテモ附帶ノ控訴ヲ爲スヿヲ得但附帶ノ控訴ハ公廷ニ於テ直チニ之ヲ申立ルヿヲ得

本條ハ第二百四十九條ト同一主義ニシテ敢テ復釋ヲ要セス

第三百四十三條　控訴ニ係ル事件ハ輕罪ノ裁判ヲ爲スニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判ス可シ

檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ新ナル証人又ハ始審ニ於テ陳述シタル証人ヲ呼出スヿヲ得

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百四十四條　控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ原裁判言渡ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又ハ

治〇第三百卅九條ヨリ〇第三百四十四條マテ

之ヲ取消シ更ニ裁判言渡ヲ爲スヲ可トス

被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ言渡スヿヲ得ス

私訴ニ付テノ控訴ノ裁判ハ通常民事ノ規則ニ從フ

本條第二項ハ檢察官ヲ控訴ヲ爲サシムル爲メニ設ケタルモノナリ

第三百四十五條　第三百三十一條以下ノ規則ハ控訴ノ闕席裁判ニ付テモ亦之ヲ適用ス

本條ニ就テハ讀者自ラ第三百三十一條以下ノ諸條ヲ參看スレハ則チ足レリ

第三百四十六條　檢察官其他訴訟關係人ハ違警罪事件ノ終審ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ

爲サヽルヲ得

△參看　明治十四年九月第四十四號布告

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖トモ實際已ムヲ得サル場合ニ於

テハ當分ノ內便宜取計ヒ其裁判言渡ニ付テハ上訴ヲ許サヽルヿヲ得

違警罪ニ就テハ終審ヲ對審裁判言渡ニ對シ發シタル呼出狀

◎第三章　輕罪裁判（凡二十五條）

本章ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百四十七條　輕罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

一　檢察官ノ請求ニ因テ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀

二　豫審判事輕罪裁判所會議局又ハ上等ノ裁判所ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百四十八條　呼出狀ニ付テハ第三百二十二條第三百二十三條ノ規則ニ從フ

本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百四十九條　被告事件罰金ノ刑ニ該ルヘキ時ハ代人ヲシテ出廷セシムル事ヲ得ヘキ旨

ヲ呼出狀ニ記載スヘシ

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ代人ヲシテ出廷セシムルヿヲ得

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百五十條　証人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出スヘシ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

治〇第三百四十五條ヨリ〇第三百五十條マテ

第三百五十一條　第百二十四條ノ規則ハ豫審ヲ經サル輕罪事件ニモ亦之ヲ適用ス

輕罪事件ニ就テハ必スシモ豫審ヲ經ルヲ要セサルハ第百七條ノ規定スル所ナリ故ニ其豫審ヲ經サル輕罪事件ニ就テハ第三百二十四條ノ規則ヲ適用スルモノトス

第三百五十二條　檢察官ハ裁判長ヨリ被告人ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地ヲ問ヒタル後被告事件ヲ陳述スヘシ民事原告人ハ被告事件ヲ証明スヘシ

調書又ハ申立書アル時ハ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ次ニ原告証人ノ陳述ヲ聽キ且証據物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシムル可シ

被告人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百五十三條　檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

民事原告人ハ要償ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ民事擔當人ハ更ニ答辯ヲ爲スコトヲ得

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百五十四條　罰金ハ刑ニ該ル可キ被告人又ハ第二百六十九條ノ規則ニ從ヒ闕席裁判ヲ爲スコトヲ得可キ被告人其呼出ノ日時ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第三百五十五條　闕席裁判ニ關スル第三百三十一條ヨリ第三百三十四條マテノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第三百五十六條　闕席裁判ニ因リ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ左ノ場合ヲ除クノ外刑ノ期滿免除ニ至ルマテ故障ヲ爲スコトヲ得

一　被告人本案ノ裁判前豫メ裁判ス可キ事件ヲ申立テタル時

二　裁判言渡書ヲ本人ニ送達シタル時

三　被告人裁判執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルヿヲ知リタルノ証アル時

第二ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ第二第三ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヿヲ知リタルヨリ三日內ニ故障ヲ爲スヿヲ得

治〇第三百五十一條ヨリ〇第三百五十六條マテ

闕席裁判ニ因リ禁錮以上ノ言渡ヲ爲シタルハ特ニ一方ノ申立ノミニ因リ管辨ナクシテ純シタルモノナレハ本條列記スル三個ノ場合ヲ除クノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヿヲ得ルモノトス其刑ノ期滿免除ニ至ルマテト限ル所以ノモノハ刑ノ期滿免除ヲ得ルニ至レハ假令官テ刑ノ言渡アリト雖モ既ニ刑ヲ被ムルヿナキヲ以テ敢テ故障ヲ爲スヿ及ハサレハナリ

第三百五十七條　裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新タナル証人ヲ呼出シ鑑定人ヲ命シ若クハ臨檢ヲ爲スヿヲ得但是等ノ處分ヲ爲スニ付テハ第三編第三章ニ定メタル規則ニ從フ

又豫審ヲ經サル事件ニ付テハ豫審判事ヲシテ其指示スル所ノ條件ニ付キ取調ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシムルヿヲ得

本條ハ頗ル錯雜スルモ敢テ註釋ヲ要セス

第三百五十八條　犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ

本條ノ場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百五十九條　被告事件違警罪ナル時ハ終審ノ裁判言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタル時ハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

輕罪裁判所ハ違警罪事件ニ就テハ控訴ヲ受クル所ナリ故ニ被告事件輕罪ニ非ラスシテ違警罪ナリト認メタル時ハ違警罪ノ刑ヲ言渡スニ於テ充分ナル權利ヲ有スルモノナレハ其言渡シタル所ノ裁判ハ即チ終審ノ裁判ナリトス是レ大ハ小ヲ兼スルノ理ナリ且以下敢テ註釋ヲ要セス

第三百六十條　被告事件重罪ナル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ若シ豫審ヲ經サル時ハ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可シ但被告人勾留ヲ受ケサル時ハ勾引狀ヲ發ス可シ

訴訟書類及ヒ証據物件ハ檢察官ヨリ之ヲ豫審判事ニ送致ス可シ

大ハ能ク小ヲ兼ヌレトモ小ハ以テ大ヲ容ルヽヿ能ハス故ニ其事件輕罪ニ非ラスシテ重罪ナル時ハ之ヲ管轄スルヿ能ハサルヲ以テ其管轄違ノ言渡ヲ爲ス可キモノトス而シテ重罪ハ必ス豫審ヲ要ス可キモノナレハ若シ其重罪ナリト認メタル事件ニ於テ亦タ豫審ヲ經サル

治〇第三百五十七條ヨリ〇第三百六十條マテ

第○第三百六十一條　○第三百六十一條

時ハ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可キ者トス但以下及ヒ第二項ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百六十一條　被告事件豫審ヲ經タル時ハ之ヲ其裁判所ノ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可シ

會議局ニ於テハ第二百五十三條第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ取調ヲ爲シ被告人ヲ管轄裁判所ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可シ

本條ハ被告事件重罪ナリト思料シタルモノニテ既ニ豫審ヲ經タル時ノ處分方ヲ示シタルモノナリ

第三百六十二條　會議局ノ言渡ニ因リ事件ヲ受理シタル場合ニ於テ新ナル証憑ヲ發見スルヿナクシテ其事件ヲ重罪ナリトスル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ

檢事ハ大審院ニ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ

會議局ニ於テ最初被告事件ヲ輕罪ナリト認メ輕罪裁判所ニ送付シタリ然ルニ輕罪裁判所ニ於テ新タナル証據ヲ發見スルヿナキヲ以テ之ヲ輕罪ナリトスルヿ能ハス尚ホ重罪ナリト認ムル時ハ之ヲ再ヒ會議局ニ送付ス可ラス何トナレハ一旦會議局ノ判決ヲ經タレハ復タ之ヲ送付スルモ同ジキ事ヲ云フニヽナリ然テ又輕罪裁判所ニ於テハ其重罪ナリト認メタルモノヲ枉ケテ裁判センカ是レ大ニ理ニ戻ルナリ然ラハ則チ之ヲ如何シテ可ナランカ實ニ裁判ノ途茲ニ梗塞スト謂ハサルヲ得サルナリ故ニ此場合ニ於テハ檢事大審院ニ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可キモノトス

第三百六十三條　前二條ノ場合ニ於テハ會議局又ハ大審院ノ判決アルマテ檢察官ノ請求因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ被告人ヲ裁判所ノ監倉ニ留置スルノ言渡ヲ爲スヲ得

又第二百十條以下ノ規則ニ從ヒ保釋ニ付キ判決ヲ爲スヿヲ得

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百六十四條　被告事件輕罪ニシテ且証憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ被告人禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ當然保釋責付ヲ取消シタル者トス但上訴中更ニ保釋ヲ求ムルヿヲ得

一本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百六十五條　檢察官其他訴訟關係人ハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シ控治○第三百六十一條ニ　○第三百六十五條マテ

訴裁判所ニ控訴スルヿヲ得

一　檢察官又ハ無罪免訴ハ刑ノ言渡アリタル時但違警罪事件トシテ言渡アリタル場合ニ於テハ其事件ヲ輕罪ナリトスル時

二　被告人ハ違警罪ニ付テノ言渡ヲ除クノ外刑ノ言渡ヲ受ケタル時

三　民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上始審裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時

四　檢察官其他訴訟關係人ハ管轄違越權攝律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

本條ハ頗ル錯雜セリト雖モ敢テ註釋ヲ要セス

第三百六十六條　控訴ハ裁判言渡アリタルヨリ五日内ニ之ヲ爲スヿヲ得

闕席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スヿヲ得但第三百五十六條ノ場合ニ於テハ五日内ニ之ヲ爲ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百六十七條　公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ檢察官ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監倉ニ移スヘシ

控訴アル時ハ都テノ執行ヲ停止スルモノトス故ニ被告人ノ控訴ヲ爲シタルトキ對手人ノ控訴ヲ爲シタルトヲ問ハス被告人ノ勾留ヲ受ケタルトキハ之ヲ控訴裁判所ノ監倉ニ移スモノトス而シテ其之ヲ移スハ檢察官ノ擔當スル所ナリトス

第三百六十八條　第三百九十九條ヨリ第三百四十二條マテ及ヒ第三百四十四條ノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百六十九條　輕罪裁判所檢事ノ控訴又ハ檢事長ノ附帶ノ控訴アリタル場合ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトスル時ハ第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ會議局ニ於テ重罪裁判所ニ移ス言渡ヲ爲ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百七十條　控訴ノ闕席裁判及ヒ其故障ニ付テハ始審ノ闕席裁判及ヒ其故障ニ付キ定メタル規則ニ從フ

治〇第三百六十六條ヨリ〇第三百七十條マテ

本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百七十一條　檢察官其他訴訟關係人ハ輕罪裁判所ノ終審ノ對審裁判言渡及ヒ控訴裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ得

上告ハ故障控訴ヲ經盡シタル上ニ非ラサレハ之ヲ爲スヲ許サス是レ本條終審及ヒ對審ノ裁判言渡ニ限リ上告ヲ爲スヿヲ許シタル所以ナリ

◎第四章　重罪公判（凡三十八條）

本章ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百七十二條　重罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ依テ公訴ヲ受理ス

一　豫審判事又ハ輕罪裁判所會議局ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

二　控訴裁判所又ハ大審院ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

重罪事件ニ就テハ必ラス豫審ヲ經ルモノナレハ豫審判事ニ於テ其事件ヲ移スノ言渡ニ因ル歟又ハ輕罪裁判所ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトシテ其裁判所ノ會議局ニ送付シタル後ヲ會議局ニ於テ其事件ヲ移スノ言渡アリタル時又ハ控訴裁判所ニ於テ其事件ヲ移スノ言渡若クハ大審院ニ於テ裁判管轄ヲ定ムルノ言渡ニ因リ公訴ヲ受理スルモノニシテ決シテ檢察官又ハ民事原告人ヨリ直チニ被告人ヲ呼出シタルニ因テ公訴ヲ受理スルモノニ非ラサルナリ是レ輕罪及ヒ違警罪ト異ナル所ナリ

第三百七十三條　重罪裁判所ニ移スノ言渡確定シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ公訴狀ヲ作ルヘシ

控訴裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開クトキハ檢事長公訴狀ヲ作ルヘシ

始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開クトキハ檢事長公訴狀ヲ作リ又ハ重罪裁判所檢察官ノ職務ヲ行フ可キ檢事ヲシテ之ヲ作ラシムヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百七十四條　公訴狀ニハ左ノ條件ヲ記載スヘシ

一　被告事件ノ始末及ヒ加重減輕ノ模樣

二　被告人ノ氏名年齡身分職業住所出生ノ地

三　豫審ニ於テ集取シタル原被ノ証憑

治〇第三百七十一條ヨリ〇第三百七十四條マテ

四　罪名法律ノ正條及ヒ重罪裁判所ニ移スノ言渡ノ概畧

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百七十五條　公訴狀ニハ重罪裁判所ニ移スノ言渡書ニ記載シタルヨリ以外ノ事件又ハ被告人ヲ記載スヘカラス

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第三百七十六條　重罪裁判所ニ移スノ言渡書ニ同一ノ被告人ニ對シ附帶ニ非サル數箇ノ重罪ヲ記載シタル場合ニ於テ其職權ヲ以テ各別ニ論辨ヲ爲サシムルヿヲ得又數箇ノ公訴狀ニ記載シタル事件ニ付キ同時ニ辨論ヲ爲サシムルヿヲ得

本條ハ頗ル錯雜セリト雖ヒ敢テ註釋ヲ要セス

第三百七十七條　書記ハ被告人出廷ヨリ少クトモ五日前ニ公訴狀ノ謄本ヲ被告人ニ送達スヘシ

被告人數名アル時ハ各別ニ其謄本ヲ送達スヘシ

本條ハ被告人ヲシテ辯護ノ豫備ヲ爲サシメンカ爲メニ設ケタルモノナリ

第三百七十八條　重罪裁判所長又ハ其委任ヲ受ケタル陪席判事ハ公訴狀ノ送達アリタルヨリ二十四時ノ後書記ノ立會ニ依リ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタリヤ否ヤヲ問フヘシ

若シ辯護人ヲ選任セサル時ハ裁判所長ノ職權ヲ以テ其裁判所々屬ノ代言人中ヨリ之ヲ選任スヘシ

被告人及ヒ代言人ヨリ異議ノ申立ナキトキハ代言人一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルヿヲ得

辯護人ヲ選任シタルヨリ三日ノ後ニ非サレハ辯論ニ取掛ルヿヲ得ス

本條辨護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ所以ノモノハ重罪事件ニ就テハ必ス辯護人ヲ用フヘキモノニシテ若シ辨護人ナカラシメタル時ハ其裁判ノ無効ニ歸スルヲ以テナリ第二治〇第三百七十五條ヨリ〇第三百七十八條マテ

項第三項ハ敢テ註釋ヲ要セス第四項辨護人ヲ選任シタルヨリ三日ノ後ニ非ラサレハ辨論ニ取掛ルヿヲ得スト規定シタルハ是レ被告人ナシテ辨護人ト充分ニ商議セシメンカ爲メナリ

第三百七十九條　辨護人差支アル時若クハ被告人ヨリ之ヲ改選スヘキ正當ノ事由ヲ申立タルトキ被告人自ラ辨護人ヲ選任スルヿ非サレハ前條ノ規則ニ從ヒ裁判所長ヨリ之ヲ選任スヘシ但辯護人ヲ改選シタルトキニ三日間辨論ヲ停止スヘシ

本條ノ場合ニ於テ三日間辨論ヲ停止ス可シト定タルハ是レ亦被告人ナリノ後ノ辨護人ト能ク商議セシメンカ爲ナリ

第三百八十條　書記ハ第三百七十八條ノ場合ニ於テ訊問ノ調書ヲ作リ辨護人ヲ選任スルヿヲ付キ其式ヲ履行シタルヿヲ記載スヘシ

辨論中辨護人ヲ改選ス及ヒ辨論ヲ停止シタルトキハ公判始末書ニ其旨ヲ記載スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百八十一條　辨護人ナクシテ辨論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルヘシ

第三百七十七條ニヨリ第三百七十九條ニテノ規則ニ背キタルヿアリト雖モ辨論ニ取掛ル前ニ非サレハ被告人ヨリ異議ノ申立ヲ爲スヿヲ得ス

△參看　明治十五年一月九日第一號布告治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辨護人ナクシテ辨論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルヘシト有之候得共其裁判所所屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辨護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無効ノ限リニ在ラス

本條第一項ハ特ニ有罪ノ言渡ヲ爲シタル時ノミ無効ニ歸スルモノニシテ若シ無罪ノ言渡ヲ爲シタル時ハ假令辨護人ナシト雖モ其言渡ハ有効ナルモノトス是レ何ニ由テ然ルノ差違アルカ曰ク辨護人ナクシテ言渡シタル刑ハ或ハ過嚴ニ失スルノ恐レアルヲ以テ其被告人ノ利益トナル可キモノハ充分ニ之ヲ擴張セシカ爲メニ辨護人ヲ附ス可キモノト定ム而シテ辨護人ハ假令鞭珊季扳ノ法理ヲ究メテ且ツ蘇秦張儀ノ辨ヲ有スル者ナルトモ遂ニ被告人ナシテ無罪ノ言渡ヲ受ケシムルノ上ニ出ツ可ラス故ニ好シヤ辨護人ナシト雖モ其無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ彼ノ辨護人ヲ用ヒタル最大ノ利益ナルモノヲ得タルモノナレハ

治〇第三百七十九條ヨリ〇第三百八十一條マテ

其刑ノ言渡無罪ナル時ハ有効ナルモノトス

第三百八十二條　辨護人ハ第三百七十八條ノ處分アリタル後被告人ト接見スルヿヲ得又書記局ニ於テ一切ノ訴訟書類ヲ閲讀シ且之ヲ抄寫スルヿヲ得

辨護人ヲ除クノ外何人ト雖モ重罪裁判所ニ移スノ言渡アリタルヨリ裁判言渡アルマテ被告人ト接見スルヿヲ得ス但被告人現ニ勾留ヲ受クル地ノ裁判所長ノ允許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百八十三條　檢察官及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出シタル証人ノ氏名目錄ハ開廷ニ一日前之ヲ被告人ニ送達ス可シ

被告人ノ請求ニ因リ呼出シタル証人ノ氏名目錄ハ同上ノ期限内ニ書記ヨリ之ヲ檢察官ニ送致シ民事ニ付キ呼出シタル証人ノ氏名目錄ハ之ヲ民事原告人ニ送達ス可シ

原告被告互ニ證人ノ氏名ヲ通知スル所以ノモノハ証人ニ付キ故障ヲ爲ス可キモノアルニ因リ其申立ヲ爲シ又答辨ノ豫備ヲ爲サシム可キカ爲メナリ

第三百八十四條　前條ノ規則ニ從ヒ豫メ氏名ヲ通知セサル証人ノ陳述ハ事實參ノ考メ爲ニ非サレハ之ヲ聽クヿヲ得ス但對手人ニ異議ナキヿヲ中立タル時ハ証人トシテ其陳述ヲ聽クヿヲ得

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百八十五條　証人ハ呼出狀ヲ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百八十六條　裁判長ハ開廷ノ日ニ當リ公廷ニ於テ陪席判事檢察官ノ面前ニテ開廷ス可キヿヲ陳述ス可シ但被告人ヲ呼出ス可カラス

本條ハ重罪裁判所開廷ノ方式ヲ定メタルモノナリ

第三百八十七條　裁判長辨論二日以上ニ渉ルヘシト思料シタルトキハ重罪裁判所々在ノ地ノ裁判所判事一名ヲ以テ豫備陪席判事ト爲スヿヲ得

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

治〇第三百八十二條ヨリ〇第三百八十七條マテ

第三百八十八條　裁判官檢察官及ヒ書記各其席ニ就キタル後即時ニ訊問及ヒ辨論ニ取掛ルヘシ

裁判長ハ先ツ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フヘシ

若シ其答辭ト豫審中ノ陳述ト齟齬アリト雖ヒ公訴狀ニ記載シタル被告人ニ相違ナキ時ハ引續キ辨論ヲ爲ス可シ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三百八十九條　書記ハ呼出シタル証人ノ氏名ヲ呼立ツ可シ

其呼立ニ應シタル証人ハ扣席ニ退カシメ陳述ヲ爲スニ當リ順次ニ之ヲ呼入ル可シ

本條ハ留同ノ弊ヲ防カシカ爲ニ設ケタルモノナリ

第三百九十條　裁判長ハ書記ヲシテ公訴狀ヲ朗讀セシムルニ付キ注意シテ聽ク可キヿヲ被告人ニ告知ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百九十一條　裁判長ハ書記前條ノ朗讀ヲ終リタル後被告人ヲ訊問ス可シ

被告人豫審中ニ白狀シタル事件ヲ確認セス又ハ之ヲ取消サントスル時ハ其事由ヲ辨明セシム可シ

被告人ハ白狀アリト雖ヒ仍ホ其取調ヲ爲サヽル可カラス

被告人ハ裁判長ニ訊問ヲ受クルニ當リ其罪ヲ蔽ハシカ爲メ前ニ白狀シタルヿヲ知ラス

ト詐リ或ハ先キノ白狀ハ眞ニ吾意ニ出テタルニ非ラサル等ノヿヲ述ヘ以テ之ヲ取消サントスルヿナシトセス故ニ若シ然ル時ハ其事由ヲ辨明セシム可キモノトス

被告人自ラ被告事件ノ確實ナルヿヲ白狀スト雖ヒ陽ク之ヲ証ト爲シ難キヿアリ夫レ親屬故舊ノ罪ヲ救ハシカ爲メ情義ニ出テ不實ノ陳述ヲ爲シ又ハ其他ノ爲メニスル所アリテ白狀ヲ爲スヿハ古今其例少ナシトセス故ニ白狀アリト雖ヒ辨論ヲ停止セス必ス其有罪ナルカ無罪ナルカヲ討究シテ公判ヲ終結ス可キモノトス

第三百九十二條　裁判長ハ前條ノ訊問ヲ終リタル後証憑ヲ差出スニ從ヒ其証憑ニ付辨解ヲ爲シ且自己ノ利益ト爲ル可キ反証ヲ差出スヿヲ得可キヿヲ被告人ニ告知ス可シ

本條ハ裁判長ヲシテ被告人ヲ保護スルニ泣意ス可キヿヲ定メタルモノナリ

治〇第三百八十八條ヨリ〇第三百九十二條マテ

第三百九十三條　裁判長ハ原告証人陳述ヲ終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問フ可シ

本條ハ被告人ノ答辯屈塞ノ恐レナカラシメンカ爲メニ設ケタルモノナリ

第三百九十四條　証人ハ陳述ヲ爲シタル後其扣席ニ留ル可シ但裁判長ヨリ退廷ノ允許ヲ得タル時ハ此限ニ在ラズ

陪席判事檢察官被告人及ヒ民事原告人ハ更ニ証人ヲ訊問スルヿ又証人ヲシテ他ノ証人ト對質セシムルヿヲ請求スルヲ得

裁判長ハ職權ヲ以テ前項ノ處分ヲ爲スヿヲ得

証人ハ陳述ヲ爲シタル後ト雖モ復タ再ヒ其陳述ヲ要スル場合アルヲ以テ其前ノ陳述ヲ爲シタル後ト雖モ尚ホ其扣席ニ留マラシメ敢テ隨意ニ公廷ヲ退クヿヲ得サラシメタリ

第三百九十五條　裁判長ハ証人愛憎畏懼ノ念ヲ生シ被告人ノ面前ニ於テ充分ナル陳述ヲ爲スヿヲ得サル可シト思料シタル時ハ檢察官民事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其証人ノ陳述中被告人ヲ退席セシムルヿヲ得

裁判長ハ証人陳述ヲ終リタル後再ヒ被告人ヲ公廷ニ呼入レ其陳述シタル條件ヲ告知シ且被告人ヲシテ意見アル時ハ之ヲ申立シムル可シ

証人ハ愛憎畏懼ノ念ヲ生シタリトハ雖モ現ニ被告人ト相對スルニ當テハ審ラ其被告人ニ恩義アリ若シクハ仇嫌アリ之レガ爲メ識ラス知ラス愛憎ノ念ヲ生シ又ハ被告人ノ慓悍ナルヲ見之レガ爲メ自ラ畏懼ノ心ヲ生シ其面前ニ於テハ充分ニ陳述ヲナス能ハサルノ狀態アルカ如キハ實際上蓋シ亦少ナシトセス然レトモ若シ被告人ヲシテ退席セシムル時ハ其既ニ動キタル所ノ思念漸ク消滅シ亦充分ナル陳述ヲナスヿヲ得ルヲ至ル可シ故ニ立法者ハ此等ノ點ヲ慮リテ本條ヲ設ケタルナリ

第三百九十六條　裁判長ハ第三百條ニ定メタル手續ノ終リタル後公訴ニ付キ辯論ノ終結シタルヿヲ言渡スヘシ

本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百九十七條　檢察官及ヒ被告人ハ辯論中ニ發見シタル條件ニ付豫審ヲ求ムルヿヲ得裁判所ニ於テ其請求ヲ認可シタル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシムヘシ

治〇第三百九十三條ヨリ〇第三百九十七條マテ

第三百五十七條一項ノ規則ハ本條ニモ亦タ之ヲ適用ス

本條モ亦唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百九十八條　辯論終結ノ言渡アリタル時ハ檢察官法律適用ノ爲メ其意見ヲ陳述スヘシ被告人及ビ辯護人ハ檢察官ノ意見其當ヲ得サルヿヲ辯論スルヿヲ得

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百九十九條　前條ノ辯論ヲ終リタル後民事原告人ハ私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ被告人辯護人及ビ民事擔當人ハ答辯ヲ爲スヿヲ得

檢察官ハ私訴ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

裁判所ニ於テハ私訴ノ辯論ヲ延期スルヿヲ得但閉廷前之ヲ判決ス可シ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第四百條　被告事件重罪ニシテ且証憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免スヘシ

本條モ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第四百一條　犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ無罪ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

又原被ノ要償ニ付キ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ裁判言渡ヲ爲ス可シ

被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ賠償ノ責メヲ免カルヽヿ能ハサルヿアリ即チ第八條ヲ參看ス可シ又民事原告人ハ却テ其惡意若クハ重キ過失ニ因リ被告人ニ要償セラルヽヿアリ即チ第十六條ヲ參看ス可シ故ニ原被ノ要償ニ付テハ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ裁判言渡ヲ爲スヘキモノトス

第四百二條　辯論中公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶セサル他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル場合ニ於テ檢察官ノ請求アル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ之ヲ裁判ス可シ

辯論中ニ發見シタル條件ト雖モ本案ニ附帶セサルモノナル時ハ重罪裁判所ニ於テ直チニ之ヲ管轄スルノ權ナシ故ニ檢察官ノ請求ニ因リ本案ノ裁判ヲ停止シ判事一名ヲシテ其事件ニ付キ豫審ヲ爲サシメ然ル上ニテ數罪俱發一ノ重キニ從フノ原則ニ基キ本案ノ事件ト共ニ裁判ヲ爲スヘキモノトス

治〇第三百九十八條ニ付〇第四百二條マテ

第四百三條　檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ得

重罪裁判所ノ對審裁判所言渡ニ對シ被告人ハ控訴ヲ訴サス獨リ上告ノ途アルノミ蓋シ闕席裁判ニ付テハ別ニ故障アルヿヲ以テナリ

第四百四條　闕席裁判ヲ爲スニハ裁判長書記ヲシテ公訴狀及ヒ必要ナリトスル豫審書類ヲ朗讀セシメ又原被証人ノ陳述ヲ聽クヿシ

檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ民事原告人ハ要償ニ付キ意見ヲ陳述スヘシ民事擔當人ハ答辯スルヿヲ得

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百五條　闕席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ本人又ハ其住所ニ送達スヘシ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第四百六條　闕席裁判ニ係ル刑ノ言渡ニ對シ檢察官ニ非サレハ上告ヲ爲スヿヲ得ス

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ノ裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ得

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第四百七條　闕席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヿヲ得但捕ニ就キタル時ハ十日內ニ故障ヲ爲ス可シ

本條ノ故障刑ノ期滿免除ニ至ルマテト記シタルハ其期滿免除ニ至レハ公然免訴タルヿヲ得レハ敢テ故障ヲ爲スノ要ナケレハナリ

第四百八條　故障ノ申立ハ闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

重罪裁判所ニ於テハ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

其故障ヲ受理スヘキ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百九條　闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲スヘシ

控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ重罪裁判

治〇第四百三條ヨリ〇第四百九條マテ

所ノ裁判ヲ受クヘキノ言渡ヲ為スヘカラス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

◎第五編　大審院ノ職務（凡四節四十九條）

大審院ノ構成及ヒ權限ニ付テハ第二編第六章ニ於テ之ヲ規定セリ今本編ハ其職務ヲ規定シタルモノナリ抑モ大審院ナルモノハ各裁判ノ法律ニ違ヒ定規ニ戻ルモノヲ改正シ以テ全國法律ノ適用ヲ一定ナラシメンカ為メニ設ケタルモノナリ故ニ該院ニ於テハ特ニ法律ノ解釋ヲ為スニ止マリ敢テ事實ノ鑑定ヲ為サヽルナリ

◎第一章　上告（凡二十九條）

上告ハ最上終極ノ上訴ナルヲ以テ苟モ他ニ原言渡ヲ矯正スルノ方法アル時ハ之ヲ舍テ直チニ上告ヲ為スヿヲ許サス故ニ上告ハ終審ノ言渡ニ限リ之ヲ許スモノトス

第四百十條　檢察官及ヒ被告人ハ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ上告ヲ為スヿヲ得

一　法律ニ背キ忌避ノ申立ヲ認可セサル時

二　裁判所ノ構成規則ニ背キタル時

三　法律ニ背キ管轄違又ハ管轄ナリトノ言渡若クハ管轄ニ非サル裁判所ニ事件ヲ移スノ言渡アリタル時

四　法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時及ハ無効ノ記載ナキ規則ニ背キタルニ因リ異議ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ認可セサル時

五　法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサル時

六　法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意言ヲ聽カサル時

七　裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ為サス又ハ職權ヲ以テ判決スルヿヲ得可キ場合ヲ除クノ外請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ為シタル時

八　裁判言渡ヲ公行セス又ハ傍聽ヲ禁スルノ言渡ナクシテ訊問及ヒ辨論ヲ公行セサル時

九　事實及ヒ法律ニ因リ言渡ノ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アル時

十　擬律ノ錯誤アル時

治〇第四百十條

十一　越權ノ處分アル時

本條ハ上告ヲ爲シ得可キノ原由ヲ定メタルモノニシテ其原由十一個アリ而シテ其十一ノ原由ハ何レモ皆ナ其裁判ノ法律ニ違ヒ定規ニ戻リタルモノナリ是レ上告ハ裁判ノ事實ニ違フモノヲ覆審スルニ非ラスシテ法律ニ背キ定規ニ違フモノヲ覆審スルモノナルヲ以テナリ而シテ本條ニ所謂豫審トハ豫審ニ付キ故障ヲ爲シ其故障ノ言渡ニ對シテ上告ヲ爲スヲ云フナリ乞フ舒々ニ十一個ノ上告ノ原由ヲ説明セン

第一豫審中又ハ公判中裁判官若クハ書記ノ公平ヲ維持シ難キヿヲ疑ヒ第二百三十七條及ヒ第二百七十九條ニ記載シタル場合アルヿヲ鳴ラシテ忌避ノ申立ヲ爲シタルニ會議局ニ於テ之ヲ認可セサル時ハ明ニ法律ニ違背シタルモノトス故ニ其判決ノ破毀ヲ求メンヿノ上告ヲ許セリ若シ此上告ヲ許サヽレハ忌避ヲ許シタルハ全ク徒法ニ屬スルノ恐レアルナリ然レトモ若シ之レニ反メ法律ニ背キ忌避ノ申立ヲ認可シタル時ハ上告ヲ爲スヿヲ許サス

第二裁判所ノ構成ニ背キタル時トハ例ヘハ重罪裁判所ニ於テハ裁判長一名陪席判事二名（今茲ニ二名ト云フハ明治十五年第四十六號ノ布告ニ從フ）ヲ以テ裁判ヲ爲ス可キノ規則ナルニ之レニ背キ其定員ヲ減少シ陪席判事一名ト爲シ以テ裁判ヲ爲シタルカ如キノ類即チ是レ

此場合ニ於テハ上告ヲ爲スヿヲ得ルモノトス

第三法律ニ於テハ犯罪ノ種類、性質、場所及ヒ被告人ノ身分ニ於テ各其管轄裁判所ヲ定メタリ故ニ若シ其定ムル所ノ法律ニ背キ當然其事件ヲ管轄ス可キ裁判所ニ於テ管轄ニアラサルノ言渡ヲ爲シタル時又ハ其事件ヲ管轄ス可キ裁判所ニアラスシテ却テ管轄ナリトノ言渡ヲ爲シタル時若クハ其管轄ニアラサル裁判所ニ事件ヲ移スノ言渡ヲ爲シタル時ハ都テ上告ヲ爲スヿヲ許スナリ

第四法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ背クトハ例ヘハ第三百八十一條ニ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルヘシトアル規則ニ背キタルカ如キノ類ヲ云ヒ其無効ノ記載ナキ規則ニ背クトハ例ヘハ第三百七十九條ニ辯護人ヲ改選シタル時ハ三日間辯論ヲ停止スヘシトアル規則ニ背キタルカ如キノ類ヲ云フ而シテ其無効ノ記載アル規則ニ背キタル時ハ唯タ其背キタルノミヲ以テ上告スルヿヲ許スト雖モ其背キタルノミヲ以テハ未タ上告スルヿヲ得ス必スヤ異議ノ申立ヲ爲シテ而シテ後チ其申立ヲ認可セサル時

ニ非スサレ共上告スル能ハサル事アリ

第五法律ニ背キ公訴ヲ受理スルトハ例ヘハ有夫姦ノ如キ其本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノニ付キ其本夫ノ告訴ヲ俟タスシテ檢察官ヨリ公訴アリシモノヲ受理シタルカ如キ類ヲ云ヒ又ハ受理セサル時トハ是等ノ原因ナクシテ之ヲ受理セサルカ如キノ類ヲ云フ其場合ニ於テハ上告スルヿヲ得ルモノトス

第六法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽クヲ要スルモノ往々之レアリ故ニ其檢察官ノ意見ヲ聽クヲ要スルノ場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽カサル時ハ上告スルヿヲ許ス然レトモ法文或ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ又ハ職權ヲ以テ云々トカルモノハ假令檢察官ノ意見ヲ聽カスト雖モ決シテ上告スルヿヲ得サルモノトス

第七裁判所ニ於テハ請求ヲ受ケタル事件ニ付テハ必ス之レカ判決ヲナサヽル可ラサルモノトス故ニ若シ其請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サヽル時ハ上告ヲ爲スヿヲ許ス之レニ反シテ其請求ヲ受ケサル事件ニ付テハ決シテ判決ヲ爲スヿヲ得ス故ニ若シ其請求ヲ受ケサルノ事件ニ付キ判決ヲ爲サヽル時ハ又上告ヲ爲スヿヲ許ス但シ其職權ヲ以テ判決ヲ爲スヿヲ得ル場合ニ於テハ其請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタルト雖モ決シテ上告ヲ爲スヿヲ得サルモノトス

第八裁判言渡ハ必ス之ヲ公行セサル可ラサルモノトス是レ第二百六十三條ノ明示スル所ナリ故ニ若シ其裁判言渡ヲ公行セサルニ於テハ上告ヲ爲スヿヲ許ス又被告事件公安ヲ害シ又ハ猥褻ニ渉リ風俗ヲ害スルノ恐レアル時ハ其訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁スルヿヲ得ルト雖モ之ヲ禁スルニハ必ス其旨ヲ言渡サヽル可ラサルモノトス是レ第二百六十四條ノ明示スル所ナリ故ニ若シ其言渡ナクシテ訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁シテ之ヲ公行セサル時ハ又上告ヲ爲スヿヲ許スナリ

第九豫審終結ノ言渡及ヒ公判ノ言渡ニハ其事實及ヒ法律ノ正條ニ依リ其理由ヲ付セサル可ラサルモノトス是レ第二百二十八條及ヒ第三百四條ノ明示スル所ナリ抑モ事實ノ理由ハ最モ緊要ニシテ決シテ之ヲ缺ク可ラサルモノトス何トナレハ若シ明確ニ事實ヲ示サヽルトキハ裁判ハ乃チ其基礎ヲ失ヒ其專恣ニ出テタルニ類スルヿアル可ク又刑法ノ適用果シテ其事實ニ當ルヤ否ヤヲ檢審スルニ由ルナカル可キヲ以テナリ而シテ法律ニ依ルノ理由

治

ハ此ノ如ク緊要ナラストハ雖モ亦ナカル可ラサル者ナリ故ニ事實及ヒ法律ニ依リ又ハ其理由ヲ付スルモ前後齟齬シ彼此矛盾スルノ言渡ニ對シテハ共ニ上告ヲ爲スヿヲ許スナリ

第十擬律ノ錯誤トハ刑法ノ適用ヲ誤リタルモノヲ云フ例ヘハ常事犯ニ當ツルニ國事犯ノ刑ヲ以テシ又ハ重罪ノ刑ヲ輕罪ニ科シ若クハ擅ニ刑ヲ輕重ン長短二期多寡両數ノ外ニ出シ及ヒ甲條ニ依テ罰スヘキモノヲ乙條ニ照ラシテ處斷スル等ノ如キ類即チ是レナリ此場合ニ於テハ上告ヲ爲スヿヲ許スナリ

第十一越權ノ處分アルトハ例ヘハ犯罪事件禁錮以上ノ刑ニ該ラサル被告人ヲ勾留シ又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ被告人ニシテ勾留スルヲ得ヘキ者ト雖モ其勾留ノ期日成規ニ過クルカ若クハ現行犯ノ場合ニ非ラスシテ豫審判事訴アルヲ俟タスシテ豫審處分ニ取掛リタル時或ハ白狀セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用ヒ公廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタル類ヲ云フナリ是レ皆ナ固ト法律ノ許サヽル所ナリ故ニ此ノ如キ越權アリタル時ハ上告ヲ爲スヿヲ許サヽル

第四百十一條　免許又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ニ背キタルヿ又ハ犯罪ノ場所ニ因リ管轄違アリト雖モ上告ヲ爲スヿヲ得ス

前條ハ上告ヲ爲スヿヲ得ヘキ場合ヲ示シタルモノニシテ本條ハ上告ヲナスヿヲ得可ラサル場合ヲ示シタルモノナリ抑モ被告人ノ上告ヲナス所以ノ目的ハ其利益トナランカ爲メニ在リ然ラハ假令規則ニ背クヿアルモ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ニ背キタル場合ニ於テハ被告人ノ利益之レニ過クルナシ何ヲ苦ンテカ上告スルヿヲ爲サン寧ロ此ノ場合ニ於テハ上告ヲ爲スヿヲ得スト定ムルノ優レルニ若カサルナリ又犯罪ノ場所ニ因リ管轄違アリト雖モ敢テ被告人ノ不利益トナルノヿナケレハ是レ亦上告ヲ爲スヿヲ得サルモノトス

婦人霍塞的氏曰ク夫レ代議士トシテ議院ニ列ナラシムル爲メ適當ノ人才ヲ選擧スルハ固ヨリ撰擧者ノ任ナリ今日ニ於テ常ニ職業ニ奔走スル輩ヲシテ國會議院ノ候補者タラシムルヲ禁制スルノ法律ヲ頒布スルニ及ハス統テ斯ノ如キ事ハ立法官ノ干渉セサルモ候補者及ヒ撰擧人カ自ラ之ヲ整頓スル者トス彌爾氏言ヘルアリ曰ク凡ソ人民ノ爲ス能ハサル所ノ者ヲ禁スルノ法律ヲ設ルニ及ハスト苟モ腕力强壯ノ人ニ非ラサレハ鉄匠タルヲ得スト

治〇第四百十一條

爲ス法律ヲ已力門ヨリ布告セサルモ鉄匠タル輩ハ必ス腕力强壯ノ人ナル可シ婦人ニ撰擧權ヲ與フル場合ニ於テモ亦然リ法律ヲ以テ制限セサルモ撰擧人タルニ適當ノ婦人ハ必ス撰擧者タルヲ得可シ苟モ撰擧人ノ資格ヲ備フル者ニシテ故ラニ全ク不適當ノ代議士ヲ撰擧スル者ニ非ラス議院ニ列ラナル代議士ノ撰擧ニ關スル疑問ハ皆ナ撰擧人タル者ノ決定ス可キ者トスト以上霍塞的氏ノ議論ハ本條トハ其論題ヲ異ニスト雖ヒ其精神ヲ取テ以テ之ヲ本條ニ照ラス時ハ或ハ少シク疑ノ生スルモノナキ能ハサルナリ然リト雖ヒ都テ法律ハ分明ナルヲ貴ムナリ去レハ僅ニ一條ヲ加ヘタルノ故ヲ以テ其上告ヲ爲スヿヲ得ルモノト其之ヲ爲スヿヲ得サルモノトノ區界ヲ分明ナラシメタルハ實ニ良策ト謂ハサル可ラサルナリ

第四百十二條　民事原告人被告人及民事擔當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ第四百十條ニ定メタル原由ニ付キ上告ヲ爲スヿヲ得

本條ニ就テハ社會ノ利害ニ關係ナキヲ以テ檢察官ハ上告ヲ爲スヿヲ得サルモノトス

第四百十三條　上告ノ對手人ハ大審院ノ判決アルマテ何時ニテモ附帶ノ上告ヲ爲スヿヲ得

大審院檢事長モ亦附帶ノ上告ヲ爲スヿヲ得

本條ハ第三百四十九條及ヒ第三百四十二條若クハ第三百六十八條ノ主義ト同一ナリ故ニ會敢テ之ヲ贅セス

第四百十四條　上告ノ期限ハ三日ナリトス但豫審ニ付テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ起算シ公判ニ付テハ言渡アリタルヨリ起算ス

豫審ニ付テハ原被ノ辨論ナキヲ以テ公廷ニ於テ終結ノ言渡ヲ爲サスシテ會議局ニ於テ判決ヲ爲シ其言渡ヲ訴訟關係人ヘ送達スルモノナレハ其言渡書ノ送達アリタル日ヨリ起算然レモ公判ニ付テハ必ス公廷ニ於テ言渡ヲ爲スヲ以テ其言渡ノ當日ヨリ之ヲ起算ス豫審公判其手續ヲ異ニスルヲ以テ勢ヒ其起算ノ時ヲ同フセスト雖ヒ其上告ノ期限ハ共ニ三日ナリトス

第四百十五條　豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上告アリタル時ハ勾留保釋責付釋放及ヒ放免ノ言渡ヲ除クノ外其執行ヲ停止ス

豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シテ上告アリシ時ハ中原ノ鹿赤タ孰レノ手ニ落ツルヲ知ラス此治○第四百十二條ヨリ○第四百十五條マテ

時ニ當テ其執行ヲ爲スハ寧ロ大早計ノ甚ト謂ハサルヲ得ス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第四百十六條　上告ヲ爲サントスル者ハ其申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

上告ノ申立書ハ其申立アリタルヨリ二十四時内ニ書記ヨリ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

上告ノ期限ハ僅ニ三日ナレハ若シ直チニ之ヲ大審院ニ其申立ヲ爲ス可キモノトスル時ハ長崎控訴裁判所管轄及ヒ函館控訴裁判所管轄ノ人民ハ常ニ其期限ヲ經過シ其權ヲ失フニ至ラン畢竟上告ノ法律アリテ其上告ノ實ヲ得ルヿナシ其之ヲ得ル者ハ僅ニ東京近縣ニ止マルノ不都合アリ故ニ立法者ハ本條ヲ設テ其不公平ナカランヿヲ務メタリ

第四百十七條　上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ對手人ニ送達スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百十八條　對手人ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ五日内ニ答辯書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ其答辯書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ上告申立人ニ送達ス可シ

本條ハ亦敢テ註釋ヲ要セス

第四百十九條　檢察官ハ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書ハ二通ヲ作リ一通ヲ大審院ニ差出シ一通ヲ對手人ニ送達ス可シ

私訴ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書ニ付テモ亦同シ

檢察官ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書二通ヲ作ル可キモノトスルハ是レ書記ノ勞ヲ省カンカ爲メナリ

第四百二十條　書記ハ前數條ニ定メタル期限經過シタル後速ニ訴訟書類及ヒ上告書類ヲ其裁判所ノ檢察官ニ差出ス可シ

檢察官ハ其書類ヲ五日内ニ大審院檢事長ニ差出シ且意見アルトキハ之ヲ添フヘシ

檢事長ハ上告事件ヲ刑事局ノ簿冊ニ登記スヘキヿヲ院長ニ請求スヘシ

檢察官上告申立人ナル時ハ雖モ書記ヨリ差出シ來ル所ノ訴訟書類ヲ受取リ又自ラ五日内ニ之ヲ大審院檢事長ニ差出ス可キモノトス

治〇第四百十六條ヨリ〇第四百二十條マテ

第四百二十一條　上告申立人及ビ對手人ハ代言人ヲ差出スコトヲ得

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢察官ヨリ重罪ノ刑ニ該ル可キ者トシテ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ代言人ヲ選任セサル時ハ院長ノ職權ヲ以テ其院所屬ノ代言人中或ハ之ヲ選任ス可シ

前項ハ法文結尾ノ得トアルヲ以テ代言人ヲ差出スト否トハ全ク其上告人ノ自由ニシテ之ヲ差出サヽルモ亦可ナレ共後項ハ其法文ノ結尾之ヲ選任ス可シト命令スルヲ以テ必ス代言人ヲ選任セサル可ラサルモノトス

第四百二十二條　院長ハ刑事局判事中ニテ專任判事一名ヲ命ス可シ

專任判事ハ一切ノ書類ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可シ但自己ノ意見ヲ付ス可カラス

大審院ニ事實ヲ審明スル所ニ非ラス故ニ証人ヲ訊問シ原被ノ辨論ヲ聽クヲナシ抑モ其職ニ屬スル所ハ單ニ法律適用ノ當否ヲ審判スルニ在レハ專任判事ヲ命シ一切ノ書類ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ラシムル可キモノトス

第四百二十三條　上告申立人及ヒ對手人ハ專任判事ノ報告書ヲ差出スヲテハ大審院書記局ヲ經由シテ其趣意ヲ擴張ス可キ辨明書ヲ差出スコトヲ得

專任判事報告書ヲ差出シタル後辨明書ヲ差出シタル時ハ之ヲ報告書ニ添フ可シ

各言ハント欲スル所ハ充分ニ之ヲ言ヒ盡クサシメンカ爲メ本條ヲ設ケタリ

第四百二十四條　書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代言人ニ報知ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百二十五條　開廷ノ日ニハ公廷ニ於テ專任判事其報告書ヲ朗讀スヘシ

檢事長及ヒ代言人ハ各其趣意ヲ辯明スヘシ

私訴ノ上告ニ付テハ檢事長最終ニ其意見ヲ陳述スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百二十六條　上告申立人又ハ對手人ヨリ代言人ヲ差出サヽル時ハ其儘ニテ判決ヲ爲スヘシ

本條ハ被告人輕罪ノ刑ニ該ル可キ場合ニ限リ之ヲ適用スルモノナリ故ニ若シ重罪ノ刑ニ該治〇第四百廿一條ヨリ〇第四百廿六條マテ

ル者ナル時ハ被告人ノ上告シタルトキハ檢察官ノ上告シタルトニ論ナク都テ代言人ヲ選任スヘキヲ以テ其規則トスルヿ第四百二十一條第二項ノ定ムル所ナリ

第四百二十七條　大審院ニ於テ上告ノ理由ナシトスル時ハ之ヲ棄却スルノ言渡ヲ爲スヘシ

第四百十條ニ示シタル所ノ上告ノ原由ヲ缺キ又ハ法律上別ニ上告ヲナスヿヲ禁スル場合ニ於テ上告ヲナシタル時ハ大審院ニ於テハ上告ノ理由ナシトシテ之ヲ棄却スルノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

第四百二十八條　大審院ニ於テ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對スル上告ニ付キ破毀ノ原由アリトスル時ハ其言渡ノ全部ヲ破毀シ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ但後ノ數條ニ記載シタル場合ハ此限ニアラス

本條ハ大ニ緊要ナルノ法條ト雖ヒ其意義敢テ註釋ヲ要セス

第四百二十九條　擬律ノ錯誤若シクハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルニ因リ原裁判言渡ヲ破毀シタルトキハ其事件ヲ移スヿナク大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スヘシ

本條ハ原裁判言渡ノ不可ナル既ニ明晰ニシテ又敢テ他ノ裁判所ニ移シテ之ヲ覆審セシムルヲ要セス且ツ之ヲ他ノ裁判所ニ移ス時ハ徒ニ費用ヲ增加シ日時ヲ消費スルノミニシテ敢テ其利益アルナケレハ大審院ニ於テ直チニ之レカ裁判言渡ヲ爲スヘキモノトス

第四百三十條　豫審又ハ公判ノ手續規則ニ背キタルヿアリト雖ヒ其後ノ手續ニ利害ヲ及ホサヽル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヿナク止タ其手續ヲ破毀スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百三十一條　豫審又ハ公判ノ幾分ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ關係アサルトキハ大審院ニ於テ其上告ニ係ル部分ヲ破毀シ法律ニ從ヒ直チニ相當ノ裁判言渡ヲ爲シ又ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヘシ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第四百三十二條　大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ原裁判所又ハ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシムヘシ

上告アリタル場合ト雖ヒ被告人ハ原裁判所ノ監倉ニ留置スヘキモノナルヲ以テ大審院ニ於テ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ原裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシムル治○第四百廿七條ヨリ○第四百卅二條マテ

ヲ可トス然レトモ原裁判タル重罪裁判所ノ判決ニ係ルトキハ必スシモ其裁判所ヲシテ之ヲ執行セシムルヿヲ得ス何トナレハ上告ノ判決ニ先ツ閉廳スルヿアルヘキヲ以テナリ故ニ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシムルヿアリ

第四百三十三條　大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ裁判ヲ爲スヘキトキハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ定示スヘシ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ民事裁判所ニ移スヘシ

本條ハ固ヨリ當ニ然ラサルヘカラサルモノトス故ニ敢テ註釋ヲ要セス

第四百三十四條　法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確定ノ者トス

大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ上告ヲ爲スヿヲ得

法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確乎動カス可カラス確定ノ者ナルヲ以テ最早上告ヲ爲スヿヲ得ス若シ之ヲ爲スヿヲ得ルトスルモ其上ノ裁判所ナキヲ以テ之ヲ上告スルヿ能ハス故ニ斯クハ規定セリ然レトモ第二項ノ場合ニ於テハ他ノ裁判所ノ言渡ナルヲ以テ第四百十條ニ列記シタル所ノ原由アル時ハ又再ヒ上告スルヿヲ得ルモノトス

第四百三十五條　法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ニリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナクシテ其裁判言渡確定シタルトキハ大審院檢事長ヨリ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ非常上告ヲ爲スヿヲ得

非常上告アリタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

本條ハ治罪法中金科玉條ノ最モナルモノナリ

第四百三十六條　左ノ場合ニ於テハ大審院ノ裁判言渡ニ對シ檢事長其他訴訟關係人ヨリ其院ニ哀訴スルヿヲ得

一　大審院ニ於テ前數條ニ定メタル式ヲ履行セサル時

二　訴訟關係人ヨリ申立タル條件ニ付判決ヲ爲サヽル時

三　同一ノ裁判言渡ニ付キ二箇ノ條件齟齬シタル時

大審院ノ判決シタルモノナリト雖モ神ナラヌ人間ノ判決シタルモノナレハ萬ニ一或ハ確的ヲ欠キ法式ニ適ハサルヿアルナキヲ保シ難シ然ルニ大審院ハ最上ノ法院ニシテ其上ニ

位スルモノナケレハ之ヲ他ニ上訴スルヿ能ハス然ラハ泣クモ其冤枉ヲ忍ハンカ是レ大ニ法理ニ背戻スルナリ故ニ此場合ニ於テハ其大審院ニ哀訴シ以テ前キノ判決ヲ更改セラレンヿヲ請求スルヲ許セリ

第四百三十七條　哀訴ヲ爲サントスル者ハ裁判言渡アリタルヨリ三日内ニ書記局ニ其申立ヲ爲ス可シ

書記ハ申立書ヲ受取リタルヨリ三日内ニ之ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ同一ノ期限内ニ其答辯書ヲ差出ス可シ

大審院ニ於テハ通常上告ノ規則ニ從ヒ哀訴ノ判決ヲ爲ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百三十八條　大審院ノ裁判言渡ハ其言渡アリタルヨリ三日間又哀訴アリタル時ハ其判決アルマテ執行ヲ停止ス

哀訴アリタルノ場合ニ於テハ或ハ前ノ判決ヲ更改スルヿアリ然ラハ前ノ裁判言渡ヲ執行スルモ徒勞ニ屬スルヿナキ能ハス故ニ本條ヲ設ケテ斯クハ規定セリ

○第三章　再審ノ訴（凡九條）

再審ノ訴ハ原裁判ノ誤認ヲ更改スル非常ノ方法ナリ即チ重罪輕罪ノ刑ノ言渡アリタル時其言渡ニ對シテ上訴ヲ行ヒ盡シ若クハ定期内ニ上訴スルヿナクシテ裁判言渡ノ確定シタル後チ其裁判ノ誤認ナルヿヲ發見シタルニ因リ被告人ノ利益ノ爲メニ再ヒ審判アランヿヲ訴フルモノナリ

第四百三十九條　再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スヿヲ得但裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

一　人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレタルト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタルノ確証アリタル時

三　同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

三　犯罪アル以前ニ作リタル公正ノ証書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルヿヲ證明シタル時

四　被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

五　公正ノ証書ヲ以テ訴訟書類ニ僞造又ハ錯誤アルヿヲ証明シタル時

治○第四百卅七條ヨリ○第四百卅九條マテ

再審ノ訴ヲ爲スハ必大被告人ノ利益ノ爲メニスルモノニ限レリ又假令被告人ノ利益ノ爲メニスルモノナリト雖ヒ本條特ニ重罪輕罪ト記シタルヲ以テ若シ違警罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ決シテ之ヲ許サヽルモノトス而シテ其裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得スト定メタル所以ノモノハ其裁判確定ノ前ニ在テハ他ニ上訴スルノ途アルヲ以テナリ故ニ再審ノ訴ハ他ノ上訴ノ途既ニ閉塞シタル後ニ非ラサレハ之ヲ爲スヿヲ得サルモノトス

第一人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル場合ハ極メテ罕ニ見ル所ナル可シト雖ヒ決シテ之レナシトハ斷言スルヿヲ得ス曾テ佛國ニ於テ其例アリ乞フ之ヲ示サン甲者アリ乙者ヲ毆打シ遂ニ其身體ヲ動スヿヲ得サルニ至ラシメ而シテ後チ之ヲ河流ニ投ス時正ニ暗夜ナリ乙者流失シテ人復タ其所在ヲ知ルヿヲ得ス其重罪ヲ目擊スル証人乃チ之ヲ官ニ告發ス是ニ於テ百方屍體ヲ索ルニ得ス又乙者ヲ其住所及ヒ其他ノ場所ニ於テ見タル者ナシ然ルニ犯人ハ其罪ヲ首白シテ自ラ其重罪ヲ遂クタルヿヲ信セリ此時ニ方リ未タ乙者ノ

屍體ヲ發見セス又死沒ノ公証ナシ然レトモ故殺ノ刑ヲ言渡スニ於テ敢テ妨碍トナルモノナシ然ルニ其後チ數多ノ日月ヲ經テ始メテ被害者ハ他人ノ救フ所トナリ其傷疵モ亦既ニ痊癒シタルモ行害者ヲ畏懼スルヨリ其住所ニ復歸セサルヿヲ覺知セリト云フ是レ既ニ死シタリト想フ可富トハ釋迦樣ニテモ知ラサルノ類ニテ偶マ亦此ノ如キヿナキヲ保シ難シ故ニ之ヲ本條ノ中ニ列ヲヲタルナリ

第二同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時ハ二個ノ裁判官渡抵觸シ其言渡ヲ受ケタル者ノ中孰レカ一方ノ者ハ無罪タルヿヲ証スルニ足ルヘキヲ以テ再審ノ訴ヲ許セリ

第三犯罪ノ時ニ當リ其場所ニ在ラサルヿヲ証明シタル場合トハ例ヘハ一月一日東京ニ犯罪アリ而シテ其犯罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ受タル者十二月晝日ニ作リタル公正ノ証書ヲ以テ其日長崎ニ在リタル旨ヲ証シタルニ於テハ一月一日東京ニ在ラサルヤ既ニ明瞭ナリ去レハ其犯罪人ニ非ラザルヤ亦知ルヘキノミ故ニ此ノ場合ニ於テハ再審ノ訴ヲ許セリ

第四裁判官、檢察官、警察官賄賂ヲ收受聽訴シ若クハ怨ヲ挾ミテ被告人ヲ陷害シ或ハ証人

鑑定人通事詐僞ノ陳述ヲ爲シテ被告人ヲ陷害シ又其他ノ者不實ノ事ヲ以テ被告人ヲ誣告陷害シタルヿヲ發覺シタルニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アル時ハ乃チ前ノ被告人ノ無罪ナルヿヲ知ルベシ故ニ此ノ場合ニ於テハ再審ノ訴ヲ爲スヿヲ許セリ

第五訴訟書類ニ僞造又ハ錯誤アリタルヿヲ証明シタル時ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人果シテ有罪ナルヤ否ヤ未タ知ル可ラスト雖ヒ其裁判ノ言渡或ハ誤謬ナキヲ保シ難シ故ニ此ノ場合ニ於テハ再審ノ訴ヲ爲スヿヲ許セリ

第四百四十條　再審ノ訴ヲ爲スヿヲ得可キ者左ノ如シ

一　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官

二　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事長

三　大審院檢事長但司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ

四　刑ノ言渡ヲ受ケタル者

五　刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬

檢察官ハ固ト法刑ノ職ニ任スル者ナリト雖ヒ亦兼テ被告人ヲ保護ス可キノ任アルモノト

ス故ニ前條ニ定メタル原由アリタル時ハ再審ノ許ヲ爲スヿヲ得又刑ノ言渡ヲ受ケタル者此權ヲ有スルハ固ヨリ當然ノヿニテ敢テ予輩ノ喋々ヲ要セス又刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時其親屬此權ヲ有スルハ其名譽ヲ復センカ爲メナリ昔者佛國ニ加拉斯ト云フ人アリ一千七百六十一年偶マ其子縊死セリ此子ハ現ニ鬱憂病ニ罹レルモノナレハ其死ヤ恐ラクハ自殺ナル可キニ其父加拉斯ハ其子ヲ殺害セシモノナリトノ嫌疑ヲ受ケ終ニ審廳ニ拘引セラレタリ然ルニ加拉斯ハ其寃ヲ展フルヿヲ得スシテ終ニ無辜ニモ死刑ニ處サレタリ時ニ有名ノ學士勃爾對氏之ヲ聞テ大ニ憤リ精シク其事實ヲ探偵シ之ヲ書ニ著ハシ汎ク世間ニ公布セリ是ニ於テ其事タル頗ル有名ト爲リ世人擧テ其寃ヲ哀ムニ由リ政府モ亦其遺族ノ情願ヲ聽キ之ヲ放棄ス可ラサルヿニ立チ至リ遂ニ五十人ノ判事ヲシテ之レカ再審ヲ爲サシメタリ然ルニ總テノ証據ヲ吟味シタル後チ以テ前ノ裁判ヲ破棄シ加拉斯ハ全ク無罪ナリト裁決セリト云フ假令其人既ニ死刑ニ處セラレタル後チタリト雖ヒ無罪ノ者ノ名譽ヲ保護シタルハ即チ勃爾對ノ力ナリトテ大ニ時人ノ稱贊ヲ受ケタリ嗚呼名譽ノ爲メニハ生命ヲ顧ミサル者天下往々之レアリ故ニ其刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタリト雖

治〇第四百四十條

ニ再審ノ訴ヲ爲ス權ヲ失ハシム可ラス必スヤ其親屬ニ此權ヲ與ヘサル可ラサルモノトス

是レ第五ノ場合ヲ本條ノ中ニ列ラヌタル所以ナリ

第四百四十一條　再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラス何時ニテモ之ヲ爲スヿヲ得

刑ノ消滅トハ即チ刑ノ滿期、期滿免除、特赦又ハ復權等ニ因テ刑ノ消滅シタル場合ヲ云フナリ然ラハ此等ノ場合ニ於テハ既ニ自由ノ身トナリシ者ナレハ敢テ再審ノ訴ヲ要セサルカ如シト雖ニ深ク之ヲ考フルトキハ亦其再審ノ訴ヲ爲サヽル可ラサルモノアリテ存セリ何トヤ誤謬ノ裁判ヲシテ其効力ヲ有セシムルハ正理ノ許サヽル所ナルヲ以テ假令刑ノ消滅スルモ之レカ爲メ誤謬ナル裁判ヲ其儘ニ放棄シ之ヲ默ス不問ニ附スルノ理ナキモノトス又一ニハ名譽ハ一種ノ財産ナルヲ以テ其裁判ノ誤謬ナルヿヲ正スヿナケレハ假令刑ハ消滅シテ其身ノ自由ヲ得ルト雖ニ其人終身ノ營業上ニ大ナル不利益ヲ受クルヿハ自然ノ勢ニシテ蓋シ免レサル所ナリ好シヤ營業上ニ影響ヲ被ムルヿナキモ人ノ名譽ハ至重ノモノニシテ時ニ或ハ生命ヨリ貴キヿアルモノナレハ此ノ名譽ヲ回復スルノ訴ハ實ニ緊要ナルモノトスヿ而シテ名譽ヲ損害スルニ二アリ曰ク其一ハ唯タ名譽ヲ損害スルニ止マルモノ曰ク其二ハ身體ニ刑ヲ被ムリ若クハ身體ヲ拘束セラル可キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者未タ其刑ヲ執行セラレサル者自ラ併セテ名譽ノ損害ヲ受ケタルモノ即チ是レナリ然ラハ名譽ヲ損害スルノ點ニ就テハ專門ニ名譽ヲ損害スルモノ大ニシテ身體ヲ拘束セラル可キカ爲メ併セテ名譽ヲ損害スルニ至リシモノ小ナルカ否ナ正ニ其反對ノ點ニ在リ故ニ再審ノ訴ハ假令刑ノ消滅スルモ名譽ノ爲メ何時ニテモ之ヲ爲スヿヲ得ルモノトセリ

第四百四十二條　再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原裁判言渡書ノ謄本及ヒ証憑書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出スヘシ

原裁判所ノ檢察官ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ大審院檢事長ニ差出スヘシ

原裁判所ノ檢察官及ヒ控訴裁判所檢事長自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスル時ハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百四十三條　大審院ニ於テハ檢事長ノ請求ニ因リ速ニ專任判事一名ヲシテ其取調ヲ爲シ報告書ヲ差出サシムヘシ

治〇第四百四十一條〇第四百四十二條〇第四百四十三條

本條ハ第四百二十三條ト同一主義ニシテ唯タ上告ト再審トノ差アルノミ

第四百四十四條　大審院ニ於テハ他ノ事件ヲ閣キ刑事局判事全員會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ因リ判決ヲ爲スヘシ

再審ノ訴ハ一旦裁判ノ確定シタル後ニ於テ起ルモノニシテ其既ニ確定シタル裁判ヲ更改スルハ頗ル重大ノ事ニ係リ且ツ刑ノ執行ヲ急速ニ停止スルヿヲ要スルモノナレハ大審院ニ於テハ他ノ事件ヲ閣キ刑事局ノ判事全員會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決ヲ爲スヘキモノトス

第四百四十五條　大審院ニ於テ再審ノ原由アルヿヲ認メタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ附キ再審ヲ爲スヘキヿヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移スヘシ

其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規則ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシ

大審院ニ於テ第四百三十九條ニ定メタル原由アルヿヲ認メタル時ト雖ヒ自ラ其事件ニ付キ再審ヲ爲サス唯タ原裁判言渡ヲ破毀シタル上ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ更ニ被告人ト爲シテ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移スヘキモノトス此場合ニ於テハ私訴ノ言渡ニ付キ再審ノ請求ナシト雖ヒ公訴ニ附帶スルノ故ヲ以テ其ニ之ヲ移サヽル可ラス

大審院ヨリ其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ管轄ニ非ラサルノ言渡ヲ爲スヿヲ得ス通常ノ規則ニ從ヒ相當ノ裁判ヲ爲シ或ハ無罪ノ言渡ヲ爲シ或ハ法律ニ從ヒ適當ナル刑ヲ言渡スヘキモノトス

第四百四十六條　死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ大審院ニテ再審ノ原由アルヿヲ認メタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヿナク原裁判言渡ヲ破毀スヘシ

刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル後其親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ其死者ヲ更ニ被告人トシテ他ノ裁判所ニ移スヿヲ得ス故ニ唯タ原裁判言渡ヲ破毀スルノヿニ止マル者トス是ニ於テ死者ハ一億アリ何ソヤ生人ニ在テハ假令大審院ニ於テ再審ノ原由アルヿヲ認メ以テ原裁判言渡ヲ破毀スルモ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移スヿヲ得キ者トシテ又其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規則ニ從ヒ裁判ヲ爲スヿヲ得キニ付キ時ニ或ハ無罪ノ言渡ヲ爲スヿヲ得キモ亦或ハ多少ノ刑ヲ言渡スヿアリ然ルニ死者ニ在テハ親屬

治〇第四百四十四條〇第四百四十五條〇第四百十六條

○第四百四十六條　再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ大審院ニ不再審ノ原由アルヿヲ認メタル時ハ大審院直チニ原裁判言渡ヲ破毀シ以テ次條ニ從テ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ掲示公告スル可キ者ニ之ヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ其死者ハ無罪ナルノ感覺ヲ世人ノ腦裡ニ與フルヿナシ生人ニ在テハ假令大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀スルモ未タ以テ有罪ナルカ將タ無罪ナルカ判ス可ラサルニ死者ニ於テハ一旦大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀スル時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲ナリトテ其言渡書ヲ掲示公布セラレ以テ世人サノ無罪ナリト認メタル所ハ實ニ死者ノ爲メニ大ナル僥倖ト云フ可シ民間ノ風俗食事ニ於テ始メ父ニ供シテ其次ニ母ニ母兄姉妹ト順次ニ移ルヲ禮トスルモ其末妹一旦黄泉ノ客トナルニ於テハ食事ニ於テ父ニ先キニ供スル者トス是レ其事柄ヲ異ニスト雖ヒ其旨蓋シ此等ノ理ナラン耶

第四百四十七條　再審ノ裁判ニ因リ無罪ノ言渡アリタル時又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタル時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ掲示公告ス可シ

本條ハ於テハ再審裁判ニ因リ無罪ノ言渡アリシ者ト前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリシ者即チ其實未タ有罪ナルカ將タ無罪ナルカ遽ニ以テ判ス可ラサル者トヲ取扱フニ同一ノ手續ニ因リ共ニ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ掲示場ニ貼付シ且ツ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘキモノトス是レ遽ニ之ヲ考フレハ大ニ公平ヲ失シタルカ如シト雖ヒ深ク之ヲ考フルニ於テハ宜シク亦然ラサルヘカラサルモノアリテ存セリ何ソヤ死人ニ口ナシ故ニ死人ニハ務メテ保護ヲ與ヘサレハ動モスレハ寃枉ニ陷ルヲ免レサルモノナリ夫レ大審院ニ於テ再審ノ原由アルヿヲ認メ以テ原裁判言渡ヲ破毀スルニ於テハ十ニ八九ハ無罪ナル者ナルヘケレハ彼此同一ノ取扱ヲ爲スモ敢テ不公平ニ非ラサルヲ知ルヘシ況ンヤ無罪ノ言渡ト破毀ノ言渡トヲ明記スルニ於テヲヤ焉ソ其レ不公平ナランヤ又況シヤ其被告人ノ生存シタランニハ充分ナル無罪ナル言渡ヲ受ケ以テ眞ニ名譽ヲ回復スルヿアランモ亦タ知ル可ラサルニ於テヲヤ否ナ多クハ無罪ノ言渡ヲ受ク可キモノナルニ不充分ナル原裁判言渡ノ破毀ニ止マルハ實ハ死者ニ於テ遺憾ニ想フ所ナラン然ラハ本條ニ於テ彼此同一ノ取扱ヲ爲スハ大ニ其當ヲ得タルモノト謂フヘシ

○第三章　裁判管轄ヲ定ムルノ訴（凡三條）

本章ハ敢テ註釋ヲ要セス

治○第四百四十七條

第四百四十八條　通常裁判所ト特別裁判所トヲ問ハス管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル時又忌避ノ原由若クハ非常ノ事變ニ因リ訴訟事件ヲ管理スル能ハサルトキハ檢察官其他訴訟關係人ヨリ裁判管轄ヲ定ムル訴ヲ爲スヿヲ得

大審院檢事長ハ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲スヿヲ得

通常裁判所ト高等法院及ヒ控訴裁判所重罪裁判所輕罪裁判所違警罪裁判所ノ謂ニシテ特別裁判所トハ陸海軍裁判所ノ謂ナリ而シテ非常ノ事變トハ戰爭又ハ傳染病流行ノ際ヲ云フナリ

第四百四十九條　裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ訴訟書類ヲ添ヘテ大審院ノ書記局ニ差出スヘシ

裁判管轄ヲ定ムルノ訴ハ最モ迅速ヲ要スルモノナルヲ以テ直チニ大審院ノ書記局ニ其趣意書ヲ差出ス可キモノトス

第四百五十條　大審院ニ於テハ刑事局判事五名以上會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ判決シ其事件ヲ管理スヘキ裁判所ヲ定示ス可シ

大審院ニ於テハ訴訟ニ關スル一切ノ書類ニ依リ犯罪ノ性質、種類、場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ管轄ナル裁判所ヲ定示シ以テ其事件ヲ移スモノトス故ニ前ニ管轄ニ非ラサルノ言渡ヲ爲シタル裁判所ト雖モ法律ニ從ヲ管轄ナルニ於テハ本案ノ事件ヲ移ノ更ニ裁判ヲ爲サシムル可キモノトス然レモ若シ其裁判所ノ法官盡ク忌避セラレ又ハ非常ノ事變ニ依リ其事件ヲ管轄スル能ハサル場合ニ於テハ其裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ヲ定示ス可キモノトス

○第四章　公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴（凡八條）

本章ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百五十一條　犯罪ノ性質被告人ノ身分區數地方ノ民心其地重大ナル事情ニ因リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アル時ハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヿヲ得

重罪又ハ輕罪ヲ犯セシ地方ニ於テ被告人ニ傾意スル激烈ナル朋黨アリ又ハ宿怨凝結スル

治○第四百四十八條ヨリ○第四百五十一條マテ

ノ敵黨アルヿナキニ非ラス國事犯ノ如キハ犯罪ノ地ニ於テ未タ其住民熱心ノ冷却セサル
ニ當リ其地ニ於テ之ヲ裁判スルキハ頗ル危險ニ涉ルヿ寡カラス又被告人ノ數極メテ多ク
若クハ其黨類朋友多衆ナルカ或ハ匪黨ニ對シ良民ノ憤怒未タ解ケサルヿアルヘシ是ヲ以
テ犯人ヲ强奪シ或ハ其處刑ヲ急ニシ及ヒ其罪ヲ加重セシメンカ爲メ暴行ヲ爲スノ恐レア
リ故ニ詞訟ヲ妨害スル者ナカラシメ以テ充分ナル靜隱自由ヲ法廳ニ保シ以テ世論ニ拘ル
ヿナカラシムルハ實ニ緊要ノヿナリ是ヲ以テ此ノ如キ場合ニハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等
ナル他ノ裁判所ニ移スヿヲ得ルモノトス

第四百五十二條　公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ司法卿ノ命ニ因リ大審院檢事長ヨリ其
院ニ之ヲ爲スヘシ

本條ハ公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲ス可キ者ヲ定メタルモノニシテ敢テ贊解ヲ要
セス

第四百五十三條　大審院ニ於テハ會議局ニテ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クヿナク速ニ前條ノ訴
ヲ判決スヘシ

公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ要スルニ行政上ノ處分ニ屬シ且ツ固ト訴訟關係人ニ其
訴ヲ爲スヲ得ル權ヲ與ヘサルヲ以テ大審院ニ於テハ其訴訟關係人ノ申立ヲ聽クヿナク會
議局ニ於テ速ニ其訴ヲ判決スルモノトス

第四百五十四條　被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ摸樣ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルヿ
能ハサルノ恐アル時ハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヿヲ得

被告人ノ身分貴顯巨商土豪ナルカ地方ノ民心穩カナラサルカ又ハ犯罪ニ因リ損害ヲ被ム
リタル者其地方ニ多キ等ノ原由ニ因リ假令裁判ニ對シ紛擾危險ヲ生スルノ恐レナシト雖
ヒ裁判公平ヲ維持シ難キノ嫌疑アル時ハ其裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スヿヲ得ルモノトス

第四百五十五條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨ
リ之ヲ爲スヿヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案
ニ付キ辨論ヲ爲シタル時ハ前項ノ訴ヲ爲スヿヲ得ス

裁判ニ對シ紛擾危險ヲ生スルノ妨礙ヲ除去シ以テ公安ヲ謀ルヿ蓋シ政府ノ任ナリ故ニ公
治○第四百五十二條ニリ○第四百五十五條イテ

安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ司法卿ノ命令ニ因リ大審院ノ檢事長ニリ其院ニ之ヲ爲スヘキモノトスレモ裁判官公平ヲ維持シ難キノ嫌疑アルヤ否ヤニ付テハ司法卿ノ親シク知リ得可キ所ニ非ラス故ニ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ其公平ナル裁判ヲ受クルニ付キ直接ノ利益ヲ有スル者即チ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スヘキモノトス

第二項ノ場合ニ於テハ被害者甘ンシテ其裁判ヲ受ケンコヲ承諾シタルモノト認ムルガ故ニ前項嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スコヲ得サルモノトス

第四百五十六條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニハ其趣意書二通ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出スヘシ

書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其送達アリタルヨリ三日內ニ答辯書ヲ差出スコヲ得

嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニ就テハ之レカ對手人ニ於テハ費用ヲ增シ時日ヲ消スル等大ニ損害ヲ被ムルノ恐レアルモノナルヲ以テ其趣意書一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ送達アリタルヨリ三日內ニ答辯書ヲ差出スコヲ得ルモノトセリ

第四百五十七條　大審院ニ於テハ第四百五十條ノ規則ニ從ヒ前條ノ訴ヲ判決スヘシ

本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第四百五十八條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴アリタル時ハ裁判所ニ於テ其訴訟手續ヲ停止ス

檢察官其他訴訟關係人ヨリ嫌疑ノ爲メ管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ其訴若シ果シテ理由アル時ハ大審院ニ於テ他ノ裁判所ヲ定示ス可キニ因リ原裁判ニ於テハ大審院ノ判決アルマテ姑ク訴訟手續ヲ停止セサル可ラサルモノトス是レ訴訟手續ヲ繼續スルモ到底無効ニ屬スルヿアル可キヲ以テナリ

◎第六編　裁判執行復權及ヒ特赦（凡三章二十二條）

本編分ツテ三章ト爲ス即チ裁判執行ヲ以テ第一章ト爲シ復權ヲ以テ第二章ト爲シ特赦ヲ以テ第三章ト爲ス

◎第一章　裁判執行（凡十一條）

治○第四百五十六條○第四百五十七條○第四百五十八條

○裁判執行トハ裁判言渡既ニ確定シタル上ニテ刑ヲ實行スルヲ云フナリ

第四百五十九條　重罪輕罪違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラス

刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラサルヿ重罪輕罪違警罪與ニ同シキ所ナレトモ其所謂裁判確定トハ三罪何レモ其日ヲ異ニス此事ニ就テハ予輩刑法第五十條ノ下註ニシタル所モアレトモ本條ニ於テハ頗ル必要ナルヿニ付キ復タ少シク註スル所アラントス

重罪ニ付テハ其裁判ニ不服ナリト雖ヒ其上ニ位スル控訴裁判所ナキヲ以テ其不服ヲ訴フルハ猶リ上告ノ途アルノミ故ニ其原裁判ヲ不服ナリトシテ上告期限即チ裁判言渡アリシヨリ三日内ニ上告シタル時ハ其再度ノ裁判言渡ヨリ三日ヲ經過シテ始メテ刑ヲ執行スルモトスレヒ若シ上告ナキ時ハ其裁判言渡アリシヨリ唯タ其上告ノ期限三日ヲ經過スレハ則チ裁判確定シタルニ付キ其刑ヲ執行スルモノトス故ニ重罪ニ付キ裁判確定トハ通常裁判言渡アリシヨリ三日ヲ經過シ四日目ノ日ナリト知ル可シ

輕罪ニ付テハ原裁判ヲ不服ナリトスレハ即チ五日内ニ控訴スルヿヲ得故ニ通常裁判言渡アリシヨリ控訴期限五日ヲ經過シテ六日目カ即チ裁判確定ノ日ナリ然レヒ若シ又其後上告アリタル時ハ裁判言渡アリシヨリ上告期限三日ヲ經過シテ四日目ノ日カ即チ裁判確定ノ日ナリ故ニ輕罪ニ付キテハ或ル場合ニ於テハ裁判言渡アリシヨリ五日ヲ經過シ六日目ヲ以テ裁判確定ノ日ト爲シ又或ル場合ニ於テハ裁判言渡アリシヨリ三日ヲ經過シ四日目ヲ以テ裁判確定ノ日ト爲セリ

違警罪ニ付テハ明治十四年第四十四號ニテ「總テ上告(按スルニ上訴ノ意ナラン)ヲ訴サルヲ以テ言渡ヲ爲スヒハ即時ニ確定スルニ付キ直チニ之ヲ執行ス可キ」旨ノ公布アリ故ニ違警罪ハ裁判言渡ノ日カ即チ裁判確定ノ日ト知ル可シ

刑法第五十條ニ曰ク「刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルヿヲ得ス」ト今本條ト參看スルニ其文面少シク異ナルモ其意義同一ニシテ敢テ寸毫ノ異ナル所ナシ故ニ重復ニ似タリト雖ヒ決シテ然ラス彼レハ刑期計算ニ付テ必要ナルニ因リ之ヲ設ケタルモノニシテ此レハ裁判執行ニ付テ必要ナルニ因リ之ヲ定メタルモノナリ然ラハ其旨同シキモ其之ヲ用フル所以ニ至テハ大ニ異ナレリ且ツ夫レ刑法ト治罪法ト其律ヲ別ニスルヲ以テ彼

治○第四百五十九條

此同一ノ旨意ヲ載スルモ敢テ重復ナラサルヲ知ル可シ

第四百六十條　死刑ノ言渡確定シタル時ハ檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出ス可シ

司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令アリタル時ハ三日内其執行ヲ爲スヘシ

死刑ハ他ノ刑ト異ニシ一旦執行シタル以上ハ裁判ニ錯誤アルモ決シテ之ヲ挽回ス可ラサルモノナルヲ以テ務メテ鄭重ニ鄭重ヲ加ヘテ他ノ刑ノ如ク裁判確定シタルノ日ヲ以テ直チニ之ヲ執行スルヲナク檢察官ヨリ一切ノ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出シテ其命令ヲ待ツ可キモノトス

司法卿ハ訴訟書類ヲ檢閲シタル上ニテ特赦ヲ爲スヘキ者ト思料シタル時ハ速ニ其旨ヲ上奏シ否ラサル時ハ訴訟書類ト共ニ執行命令書ヲ檢察官ニ送致シ三日内ニ死刑ヲ執行セシムルモノトス但シ死刑ヲ執行スルハ午前第十時ヲ過ク可ラサルモノトス刑法第十三條ニ曰ク「死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス」ト今本條ハ此効果ナリ

第四百六十一條　死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之レヲ執行スヘシ

本條ハ第四百五十九條ノ裏面ヨリ云ヒシモノニシテ彼ノ條アル以上ハ敢テ必要ナラサル

ニ如シト雖モ抑モ亦其然ラサル可ラサル所以ノモノアリテ存スルナリ何ソヤ前條特ニ死刑執行ノミニ就テ其手續ヲ設ケラレタレハ勢ヒ其他諸刑執行ノ期ヲ定メサル可ラサルモ其ハ且ツ夫レ第四百五十九條ニ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラス」ト其執行ノ始メヲ制限シタルニ止マリ未タ其執行ノ終リ即チ其執行ノ日ハ是ヨリ後ニス可カラスト云フ制限ノナキモノナレハ宜シク之レガ制限ナカル可ラサルモノトス今本條ハ「刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之ヲ執行ス可シ」ト云フニ在ルヲ以テ其執行ノ是レヨリ後ニス可ラスト云フ終リテ制限シタルモノナリ故ニ彼ノ條ハ執行ノ始メテ制限シ此ノ條ハ其終リヲ制限シタルモノナレハ彼此両條アリテ始メテ首尾全キ法律ト云フ可シ是ニ由テ之ヲ觀レハ本條ノ必要ナル亦知ル可キナリ

第四百六十二條　刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察官又ハ大審院ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ依リ之ヲ爲スヘシ

罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官ノ命令書ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

破壞又ハ廢棄スヘキ沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ス可シ

治〇第四百六十條〇第四百六十一條〇第四百六十二條

△參看　明治十四年十二月司法省丁第二十五號達

治罪法第四百六十二條第三項罰金科料費用及ヒ沒收物品ノ徵收ハ書記局ニ於テ之レヲ擔當シ會計主任ヘ引渡ス儀ト可心得此旨相達候事

△明治十五年三月六日司法省丙第八號達

處刑宣告ノ後犯人ヲ司獄官ヘ護送セシムル際ニ於テハ監獄則ニ從ヒ檢察官ヨリ右宣告書ノ謄本ヲ司獄官ヘ送達スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

第三十四條第三ニ曰ク「裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス」ト今本條ハ其詳細ヲ定メタルモノナリ

第四百六十三條　死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作リ刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印スヘシ

其他刑ノ執行ニ關スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

刑法第十一條ニ曰ク「死刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム」ト今本條ニ亦刑ノ執行ニ關スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムルノ旨ヲ記載ス

其所謂別ノ規則トハ監獄則ヲ指スナリ

第四百六十四條　裁判言渡確定シ又ハ闕席裁判アリタル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記既決犯罪表ヲ作リ左ノ條件ヲ記載ス可シ但大審院ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其執行ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ル可シ

一　犯人ノ氏名年齡職業住所及ヒ出生ノ地

二　罪名刑名

三　再犯

四　裁判言渡ヲ爲シタル年月日

五　對審裁判又ハ闕席裁判

△參看　明治十五年三月廿九日司法省乙第十九號達

明治十一年當省丁第二十七號達新聞紙條例及讒謗律犯者表雛形別紙之通改正候條右ニ照準

年兩度ニ取調前季(自一月至六月)分ハ七月十五日限リ後季(自七月至十二月)分ハ翌年一月十五日限リ可差出尤犯者無之向ハ其段可屆出此旨相達候事但シ管轄治安裁判所ノ分ハ本廳

治○第四百六十三條○第四百六十四條

〜取纏メ可差出事

凡例

一 本表ハ集會條例新聞紙條例ヲ以テ處斷シ及ヒ新聞紙雜誌雜報ノ記事ヨリ起リ或ハ公然演說ヲ爲シタル刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ヲ記入ス

一 所犯新法頒布以前ニ在テ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ニ從テ處斷シタル者ハ本表記載ノ例ニ倣ヒ記入スベシ

一 數罪俱發シ一ノ重キヲ以テ論シ其餘罪ノ輕クシテ論セサル者モ本表記載ノ例ニ準シテ一々記載スベシ

一 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ若クハ等シクシテ論セス或ハ重クシテ更ニ論シタル者ハ各々本表刑名ノ區畫中ニ記載シタル例ニ倣ヒ記入ス可シ

一 上告ニ係ル者ハ其上告ニ拘ハラス原裁判所ノ刑名ヲ記入ス但シ大審院ノ表ハ此例ニアラス

一 [illegible] 公然ノ演說上ヨリ起リ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ハ本表新聞名ノ欄內ヘ其社名ヲ書シ若シ社名ヲ[illegible]ル者ハ其理由ヲ記入スベシ

（雜形略ス）

本條ニ參看達ヲ以テ其手續既ニ明瞭ナレハ敢テ贅釋ヲ施サス

第四百六十五條 既決犯罪表ハ二通ヲ作リ一通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置スベシ

違警罪ノ既決犯罪表ハ一通ヲ作リ其裁判所ノ書記局ニ藏置スベシ

既決犯罪表ハ犯人ノ再犯ヲ容易ニ確知セシカ爲メ豫メ作ル所ノモノナリ而シテ重罪輕罪ハ苟モ二ノ裁判確定シタル後ニ又一罪犯スニ於テハ必ス再犯ヲ以テ論スヘキモノナルニ付キ二通ヲ作リ一通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置シ以テ他日ノ考証ニ爲ス也リ然ルニ違警罪ニ付テハ一年內同一ノ違警罪裁判所ノ管轄地內ニ於テ再ヒ犯スニ非ラサレハ再犯ヲ以テ論スヘカラサル者ナルニ因リ敢テ二通ヲ作リ一通ヲ司法省ニ送致スヘキ必要ナシ故ニ唯一通ヲ作リ其裁判所ノ書記局ニ藏置スルニ止マルモノトス

第四百六十六條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ

治〇第四百六十五條〇第四百六十六條

第四百六十六條（第四十六條ノ二）

刑人言渡既ニ確定シタル後ト雖モ亦裁判所ノ判決ニ要ス可キ疑義ノ生ズルヿアリ例ヘハ刑ノ種類果シテ如何又其輕重長短果シテ如何ナルカ若クハ其執行ヲ肯セサルノ類是レナリ其言渡ヲ受ケタル者ニ此疑義ノ申立ヲ爲シ若クハ其執行ヲ肯セサルノ類是レナリ其言渡書ニ記載スル所ノ果シテ如何ナル意ナルヤハ固ヨリ以テ他ノ裁判ノ知ル可キ所ニ非ラサルヲ以テ其刑ノ宣渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決セシムルモノトス

第四百六十七條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致ス可シ

裁判所ニ於テ本犯ナルヿヲ認定スルヿ能ハサル時ハ事實參考ノ爲メ曾テ其事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原被人ノ証人ヲ呼出スヿヲ得

人違ナルカ否ヤ原裁判所ニ非ラサレハ以テ之ヲ知ルヿ能ハス故ニ若シ本條ノ場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ原裁判所ニ送致ス可キモノトス若シ其レニテモ尚ホ認定スヿ能ハサル時ハ後項ヲ記載スル所ノ人々ヲ呼出シ以テ之ヲ認定セシムルモノトス然レ共本人強テ否ラスト云ハヽ以テ其原籍住所ニ送致シテ精シク尋問スルヲ必要トスルナリ

然ラサレハ或ハ惑迷斯克勞（シエームスクラウク）ノ寃枉ナキヲ保シ難シ乞フ左ニ克勞カ寃枉ニ陷リシ慘狀ヲ示シ以テ其原籍住所ニ送致シテ精シク尋問セサル可ラサルヲ証セン

昔者英吉利約克州ニ二個ノ酒屋アリ主人ハ婦人コシテ的馬斯及的勒（トマスゲットレイ）ナル一小厮ヲ使フ及的勒一日主人ノ秘藏スル金圓ヲ盜竊シテ其内ヨリ若干ノ金圓ヲ奪掠シ愛耳蘭土ニ逃亡セシニ不幸ナル哉克勞ナル者其後凡ソ一年ヲ過キ他洲ヨリ約克洲ニ漂泊シ來リ桃夫ト爲テ生計ヲ營ミシニ此地ニ在ルヿ未タ數日ヲ出テサルニ其容貌ノ恰モ能ク及的勒ニ似タルノ故ヲ以テ忽チ前年ノ賊ト誤認サレ衆人モ亦渠レヲ呼フニ及的勒ノ名ヲ以テスルヨリ終ニ其罪ニ陷ラレテ死刑ニ處セラレタリ（唯タ金圓ヲ奪掠シタルノ罪ヲ以テ死刑ニ處セラレタリトハ少シク疑フ可キニ似タレトモ當時半開ノ法律或ハ然リシナラン）然ルニ及的勒ハ又愛耳蘭土ニ於テ惡業ヲ爲シ忽チ其罪發覺シ大伯林府（ダブリン）ニ於テ逮捕サレ審鞫ノ末遂ニ死刑ニ處セラレタルニ恰モ好シ其刑場ニ臨ミシ傍觀者ノ中約克洲ノ人コシテ嘗テ能ク及的勒ヲ知ル者アリテ爰ニ始メテ克勞ノ寃枉ナルヿヲ發覺セリト云フ當時克勞ハ其及的勒ト云フ者ニ非ラサルヿヲ綿密ニ辨ジタレトモ萬人皆ナ及的勒ナルヿヲ認メタルニ因リ法官モ終ニ

治〇第四百六十七條

第四百六十八條

死的勒ヲ認メ以テ死刑ヲ宣告セザルモノトス但此ノ如キ場合ニ於テハ原籍住所ニ送致シテ精シク尋問スル必要ナルヲ知ルベシ若シ竟勢者及的勒ト云ヘル者ニ非ラザル旨ヲ述ベタル時其原籍住所ニ送致シ以テ精シク尋問所為ヲ為シ決シテ無辜ノ良民ヲ冤枉ニ陷ルノ不幸ヲ為サザルヲ以テ彼レニ出テ衆人カ及的勒ト認メタルノ故ヲ以テ遽然ニ之ヲ死刑ニ處シタル實ニ法官ノ手落ト謂ハサル可カラス得サル

於飛リ又昔者佛國ニ達路撒的ナル者アリ拉波爾的ノ僞名ヲ以テ三人ト共ニ惡業ヲ為セシ

同國人志テ約色弗爾撒爾克ナル者アリ容貌ノ達路撒的ニ伯仲セルヲ以テ終ニ冤枉ニ陥リ死刑ニ處セラレタルヲ是レ其死刑ニ處サレタルノ日ハ實ニ一千七百九十七年三月十日ノ

セナリ是レ亦其原籍住所ニ就テ精シク尋問セサルノ誤チナリ豈ニ其レ察セサル可ケンヤ

第四百六十八條　前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判言渡ヲ為ス可シ但其言渡ニ對シテハ上訴ヲ許サス

本條ハ通常ノ裁判ト異ナルヲ以テ上訴ヲ許サヽルモノトス

第四百六十九條　賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可キ裁判費用ニ付キ其言渡ノ施行ハ通常民

事ノ規則ニ從フ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

◎第二章　復權（凡七條）

復權トハ重罪ヲ犯シ因テ公權ヲ剝奪セラレタル者ヲシテ將來ノ權ヲ復セシムルヲ云フ刑法第一編第二章第八節ノ復權ハ其効果及ヒ之ヲ願フノ期限ヲ定ム今本章ノ復權ハ請願及ヒ之ヲ許否スルノ手續ヲ定メタルモノナリ

第四百七十條　復權ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法卿ニ之ヲ為スヘシ

復權ノ願書ニハ本人署名捺印シ現ニ住スル地ノ始審裁判所檢事ニ之ヲ差出スヘシ

復權ノ請願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限即チ主刑ノ終リタル日ヨリ五ケ年ヲ經過シタル後チ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法卿ニ之ヲ為ス可キモノトス

第二項ノ明文「現ニ住スル地ノ始審裁判所檢事云々」トアルヲ以テ嘗テ刑ノ言渡ヲ受ケタル裁判所ナルト否トニ拘ハラス本人ノ現ニ住居スル地ノ始審裁判所檢事ニ差出ス可キモ

治〇第四百六十八條〇第四百六十九條〇第四百七十條

ノトスルナリ

第四百七十一條　復權ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フヘシ

一　裁判言渡書ノ謄本

二　主刑ノ滿期特赦又ハ期滿免除トナリタルヿヲ証明スル書類

三　假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタルノ証書

四　賠償及ヒ裁判費用ヲ辯濟シ又ハ其義務ヲ免カレタルノ証書

五　過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

復權ハ彼ノ期滿免除ノ如ク若干ノ星霜ヲ經過セハ以テ其權利ヲ得可キモノニ非ラス固ト願ニ因テ許スモノナリ然ルニ司法卿ハ固ト其犯人ヲ取調タル者ニ非ラサルヲ以テ書面ニ因ルニ非ラサルニ拘ハ其復權ヲ許ス可キ者ナルカ否之ヲ知ルニ由ナシ故ニ復權ノ願書ニハ本條ニ記載ス所ノ書類ヲ添フ可キモノトス

第四百七十二條　檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ差出スヘシ

復權ノ願ハ唯タ書ニ因テ以テ之ヲ許否スルモノナレハ固ヨリ本條ノ手續ナカル可カラサルモノトス

第四百七十三條　檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復權ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法卿ニ差出ス可シ

司法卿ト雖ヒ神ナラヌ者ナレハ唯タ本人ノ願書ニ因テ以テ其復權ヲ許否スルハ頗ル難シトスル所ナリ故ニ前條ヨリ本條ト順序ニ其意見書ヲ差出サシメ以テ之レカ許否ヲ決スル參考ト爲スモノトス

第四百七十四條　司法卿ハ復權ノ願ニ關スル書類ヲ檢閲シ其願ヲ允許スヘキ者ト認メタル時ハ速ニ上奏スヘシ

刑法第六十五條ニ曰ク「復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス」ト是レ本條ノ因テ起ル所ナリ

第四百七十五條　勅裁又ハ司法卿ノ意見ニ因リ復權ノ願ヲ棄却シタルトキハ司法卿ヨリ其旨ヲ控訴裁判檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ通知スヘシ

治〇第四百七十一條ヨリ〇第四百七十五條マテ

前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スヿヲ得ス

更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規則ニ從フ

司法卿ニ於テ復權ノ願ヲ允許ス可キ者ト認メ上奏シタルニ勅裁ニ因リ其願ヲ棄却シタルトキ又ハ司法卿ニ於テ未タ其願ヲ允許ス可カラサル者ト認メタルニ由リ其願ヲ棄却シタルトキハ本條ノ手續ヲ爲スモノトス然レトモ將來再願スルヿヲ禁スルヿナシ是レ刑ノ言渡ヲ受ケタル者善ニ化スルノ路ヲ梗塞ス可キノ理ナキヲ以テナリ去レト再願ハ其棄却セラレタルヨリ二年半ヲ經過シタルノ後ニ非ラサレハ之ヲ爲スヿヲ得サルモノトス

第四百七十六條　復權ノ裁可アリタルトキハ司法卿ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ送致スヘシ

檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付スヘシ

又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ裁判言渡書ニ記入スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

○第三章　特赦（凡四條）

本章ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百七十七條　特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ツルヿヲ得

監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由スヘシ但檢察官ハ意見書ヲ添フヘシ

特赦ノ申立アリタルトキハ司法卿ヨリ其書類ニ意見書ヲ添ヘ上奏ス可シ

彼ノ復權ハ司法卿其許否ヲ認定シ其果シテ允許ス可キ者ト認メタルトキハ上奏スヘキモ其未タ允許スヘラサル者ト認メタルトキハ上奏セスシテ直チニ其旨ヲ控訴裁判所檢事長ニ通知スルヲ以テ規則トスレトモ此特赦ニ於テハ司法卿ノ許否ヲ認定スルヲ詮サス其許否ヘキト否トニ拘ハラスト都テ上奏スヘキモノトスルナリ而シテ特赦ノ申立ヲ爲スヿヲ得ヘキ者ハ檢察官監獄長及ヒ司法卿ノ三者トシテ敢テ本人ノ申立ヲ爲スヿヲ許サヽルナリ

第四百七十八條　司法卿ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スヿヲ得死刑治○第四百七十六條ヨリ○第四百八十條マテ

ヲ除クノ外特赦ノ申立アリト雖ヒ刑ノ執行ヲ停止セス

第一項ハ敢テ註釋ヲ要セス第二項死刑ヲ除クノ外他ノ刑ハ何等ノ刑ナリト雖ヒ一旦執行シタルノ後ヲ之ヲ特赦スルヿヲ得可キヲ以テ特赦ノ申立アリタルト雖ヒ決シテ其刑ノ執行ヲ停止セス然ルニ獨リ死刑ハ一旦之ヲ執行シタル以上ハ復タ再ヒ活ス可ラサルモノナレハ假令特赦ノ裁可アルモ亦之ヲ如何トモスルヿ能ハス故ニ獨リ死刑ハ其執行ヲ停止スルモノトス

第四百七十九條　特赦ノ申立棄却アリタルトキハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ其旨ヲ通知スヘシ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百八十條　特赦ノ裁可アルタルトキハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ特赦狀ヲ送致スヘシ此場合ニ於テハ第四百七十六條ノ規則ニ從フ

△參看監獄則第一百四

第四百八十五條　特赦アリタルトキハ速カニ其旨ヲ內務卿ニ申報スヘシ

第二十六條　特赦ヲ受ケタル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ掲示スヘシ

本條ハ治罪法全編ノ獲麟ナリ而シテ治罪法ハ譬ヘハ猶ホ實物ニシテ予輩ノ註釋ハ譬ヘハ尙ホ虛影ナリ既ニ實物茲ニ盡ク故ニ予輩ノ註釋モ亦從テ茲ニ盡クルモノトス

予輩ハ刑法ノ註釋ヲ以テ長崎マテ案內シ今又治罪法ヲ以テ函館マテ案內ス實ニ日本全國ニ旅行否ナ施行スル所ノ刑法治罪法ヲ案內シ盡シタレハ既ニ讀者ハ必ス獨リニテ道中セヲルヿ可キモノト信スルナリ

治罪法註釋　一名獨案內　大尾

附錄目錄

監獄則

第一編

第一章　汎則　自第一條至第四十一條　一丁

第二章　監署ノ規程　自第一條至第七條　仝丁

第三章　監獄ノ構造　自第八條至第三十五條　二丁

第二編

第一章　役法　附時限　自第二十六條至第四十一條　九五丁

第二章　工錢　自第四十二條至第六十二條　一〇丁

第三章　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送　自第四十二條至第五十條　仝丁

自第五十一條至第五十七條　一二丁

自第五十八條至第六十條　二四丁

第四章　假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舍　自第六十一條至第六十二條　十四丁
第三編
第一章　給與　自第六十三條至第九十一條　一五丁
第二章　疾病　附死亡　自第六十三條至第七十四條　仝　丁
第三章　書信　自第七十五條至第七十九條　一八丁
第四章　接見　自第八十條至第八十六條　二〇丁
第五章　差入品　自第八十七條至第八十八條　二一丁
第四編　自第八十九條至第九十一條　二二丁
第一章　激誨　自第九十三條至第百十三條　仝　丁
第二章　賞罰　自第九十二條至第九十五條　仝　丁
第三章　懲罰　自第九十六條至第百二條　三五丁
懲治人名簿　自第百三條至第百十三條　二六丁
赤決者名簿　二九丁
已決囚名簿　三一丁
仮出獄ノ証票　三三丁
在監人書信紙　三五丁
囚徒服役時間表　仝　丁
各裁判所ノ位置及區畫表　三七丁
四〇丁

三　附錄目錄　終

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

附錄

監獄則

◎第一編（凡三章四十一條）

○第一章　汎則（凡七條）

第一條　監獄ヲ別テ左ノ六種トス

一留置場　裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

二監倉　未決者ヲ拘禁スルノ所トス

三懲治場　懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四拘留場　拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スル所トス

五懲役場　懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

六集治監　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

監○第一條

第二條　監獄ハ內務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第三條　集治監ハ內務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場ハ警視總監又ハ府知事（東京府ヲ除ク）縣令之ヲ管理ス

第四條　此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

第五條　內務卿ハ每年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監府知事縣令ハ每年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ

府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルコトヲ得

第六條　在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條　在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ苦情ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

○第二章　監署ノ規程（凡二十八條）

第八條　司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外

恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條　典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ內外ヲ視察シ或ハ物件ヲ查閱シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脫越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條　新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ所刑ノ宣告書等ノ文書ヲ查閱シテ之ヲ領シ其領收ノ証ヲ引致シ來ツル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス

未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條　入監ノ婦女乳兒（三歲未滿）ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條　新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ樣本ニ照シ其要項ヲ詳錄シ一小房內ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舍ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條　總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シテ危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁監○第二條ヨリ○第十三條マテ

スベシ

第十四條　總テ入監人ノ携存スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際匿セシ貨物ハ沒收ス

若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充シト請フトキハ之ヲ許ス

第十五條　在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノヽミヲ許スヘシ

第十六條　已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異スヘシ但着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿チ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

一　十六歲未滿ノ者ト滿十六歲以上ノ者

二　滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齡ニシテ初犯ノ者

三　初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條　要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ

第十八條　放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ

矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齡ハ滿八歲以上滿二十歲以下ヲ限トス

第十九條　懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一　刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘖瘂者

二　尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入レタル者

第二十條　前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戶長ノ証票ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サス但シ在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ス

入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舍ニ帶往セント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條　懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一　十六歲未滿ノ者ト十六歲以上ノ者

二　滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入シ者ト同上ノ年齡ニシテ初テ入場スル者

監○第十四條ヨリ○第廿一條マテ

五

第二十二條　在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍及ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領致ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條　典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ錄サシメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條　賞表ヲ與ヘタルトキハ賞戀簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ褫奪シタルトキハ之ヲ刪除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條　特赦アリタルトキハ速ニ其旨ヲ內務卿ニ申報スヘシ

第二十六條　特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ號ケシメ仍ホ之ヲ掲示スヘシ

第二十七條　假出獄ヲ許サレタル者ニハ其証票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ錄シ共ニ其他ノ警察官（治罪法第六十條第二項ニ記載シタル官吏）ニ送致スヘシ

第二十八條　假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルヿヲ得

第二十九條　在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條　刑期滿限ノ後賴ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヿヲ得

第三十一條　刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過クヘカラス

第三十二條　死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戶監○第廿二條ヨリ○第卅二條マテ

ヲ護ラシムヘシ

八、其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分ヲ過ギサレハ埋葬若クハ下付スルヿヲ得ス

第三十三條　死刑者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其品ヲ販賣シテ代價ヲ遞付スルヿヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス

若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス

第三十四條　在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルヿヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ

第三十五條　監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ

水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ遑ナキトキハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヿヲ得

◎第三章　監獄ノ構造（凡六條）

第三十六條　留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ築治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス

留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫內ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第三十七條　未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ

甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交遞スルノ便ヲ得サラシムヘシ

各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙適用スルヿヲ要ス

第三十八條　密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘシ

闇室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヿヲ要ス

九、密室闇室ハ一室一人ヲ限トス

第三十九條　接見室ハ監舍ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縱横ノ格子ヲ嵌メ監

格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシム

○一 ヘシ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障碍スルノ虞ナカラシムヘシ

第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

◎第二編（凡四章二十一條）

◎第一章 役法附時限（凡九條）

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ毎日一日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若シハ身体ノ虚弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應シ作業ノ科程ヲ寛恕ス

若シ已ムヲ得ス外役ニ服セシムルトキハ鐵鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ笠ヲ用ヲ（晴雨ヲ問ハス）其面ヲ掩シム但外行ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム

外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサルシムルヲ要ス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看手點檢ヲナスヘシ歸監セシムル時モ亦同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日 紀元節　一月二日 元始祭　孝明天皇祭

春季皇靈祭　神武天皇祭　秋季皇靈祭

神嘗祭　天長節　新嘗祭　十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚徒ヲシテ之ヲ導カシム其注期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シ其將來ノ生業ヲ計リ攝生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

二 第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間（休憩時間ヲ除ク）農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

○第四十條ヨリ○第四十七條マテ

第四十八條　未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以内監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條　定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飯セシム其起床ヨリ約テ一時間ヲ役ニ就カシメ午前一時前後ニ至テ湯若クハ氷ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得

起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第五十條　科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラス罷役セシム

午飯ニ就カシムル際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ倫懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休憩ヲ許サス

◎第二章　工役（凡七條）

第五十一條　定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ科定シ之ヲ十分シ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決監ニ在ル者並ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ日當ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢モ亦同シ

第五十二條　第十九條第二款ニ記載シタル懲治人ニシテ其尊屬親ニ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルニ能ハサル者及ヒ第三十條ニ記載シタル者ハ工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣餘シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條　在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條　各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ一日若干錢ト定ムヘシ

第五十五條　監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得

第五十六條　在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ第三十三條ノ例ニ照ラシテ處分ス

監○第四十八條ヨリ○第五十六條マテ

ヘシ

第五十七條　在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決者及懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬無ケレハ之ヲ沒收ス

◎第三章　徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒押徒押送（凡三條）

第五十八條　徒刑流刑及禁獄ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ其宣告書ノ謄書ヲ具シテ內務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ集治監ニ押送スヘシ

北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒刑流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送スヘキモノトス

第五十九條　北海道ニ在ル集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ルヘシ

第六十條　徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遞船中ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

◎第四章　假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舍（凡二條）

第六十一條　假出獄免幽閉ヲ受クル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ家ナキトキハ屋舍ヲ貸與スヘシ

屋舍ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス

第六十二條　假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セシト請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取糺シ之ヲ許否スヘシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戶長ニ通告スヘシ

其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否スヘシ

◎第三編（凡五章二十五條）

◎第一章　給與（凡十二條）

第六十三條　已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條　未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルヿ能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條　已決囚ノ獄衣ハ赫色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

監○第五十七條ヨリ○第六十五條マテ

第六十六條　獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書スヘシ

第六十七條　在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一單衣　一絡（一匹）　一綿入衣　一襦袢

就役服

一單短衣　一絡短衣　一綿入短衣　一襦袢　一股引

雜具

一帽圍　一蚊帳　一莞莚　一枕（一帶長三尺）

一褌（長三尺）　一手巾　一笠

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ潛濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條　在監人一人一日ノ食糧

一（下白米十分ノ四挽割麥十分ノ六）　七合　強キ力業ニ服スル者

一同　五合　輕キ力業ニ服スル者

一同　四合　工役ニ服セサル者及ヒ滿十歲未滿以上ノ未決者

一同　三合　十歲未滿ノ幼者

一菜　金壹錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ稟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルヿヲ得

第六十九條　工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者及ヒ其幾倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但金三錢ヲ過ルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條　在監人日用ノ雜費潛濯補綴及ハ炊用ノ薪炭其他一身ニ係ル日常諸費ハ一人一日金壹錢貳厘以下トス

第七十一條　監房常置ノ器具

監○第六十六條ヨリ第七十一條マテ

一貯水器ニ飲器　木製

一唾壺　同

一便器　木製大小二種但監房ニ圊圄ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒスヘシ

一小箒　草ノ種類ヲ以テ製作セシ軟カナモノ

一洗手盆　木製

第七十二條　浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條　已決囚及ヒ懲治人ノ髪ハ常ニ之ヲ短縮シ髭鬚アル者ハ常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髪ハ膏ヲ用ヒテ裝飾フルヲ許サス

第七十四條　衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ避ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防ソヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ洒洗スヘカラス

○第二章　疾病並附死亡（九五條）

第七十五條　在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若シハ病室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條　病者ノ攝養ニ効アル飲食及ヒ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ証明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七十七條　傳染病侵蔓ノ恐アルトキハ其消毒豫防ヲ愼密ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スヘシ

第七十八條　在監人死亡スレハ典獄看守長醫師幷液テ之ヲ驗屍スヘシ未決者及ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者屍亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十九條　死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之レヲ許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ

一遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキトキハ棺ニ入テ仮葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約ヲ面三寸長三尺五寸トス

監○第七十二條ヨリ○第七十九條マテ

○第三章　書信（凡七條）

第八十條　已決囚其親屬故舊ニ書信ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セントヲ請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第八十一條　未決者ニ係ル書信ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

第八十二條　懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル書信ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八十三條　在監人ノ發スル書信ハ典獄之ヲ檢閲スヘシ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條　外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル書信ハ典獄之ヲ檢閲シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ懲善ノ論示ヲ主トシタルモノニ限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之ヲ付與セス

第八十五條　書信ヲ檢閲スルニハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀及ヒ横讀シ嫌疑ノ文意アルヤ否ヲ詳査スヘシ

第八十六條　在監人ヨリ發スル書信ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便税ハ自辨セシム

親屬故舊若シクハ辨護人ノ書信ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシムヘシ

○第四章　接見（凡二條）

第八十七條　在監人ニ接見セントヲ請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍管業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サル事狀アリテ形跡ノ疑フヘキナキトキハ之ヲ許シ看守長看守並ニ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス

面會ノ時間ハ三十分ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

第八十八條　死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セントヲ請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會時間ハ五十分時ヲ監○第八十條ニリ○第八十八條マテ

第八十八條　○第八十八條ノ[illegible]ハ前條第一項ノ[illegible]過ルヲ得ス

○第五章　差入品（凡三條）

第八十九條　未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又飲食物（炊烹ヲ要セサルモノニシテ一人一食ノ量ニ限ル）贈ラントト請フトキハ之ヲ許ス但酒又煙草其他攝生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條　已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條　假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服夜具等ノ寄贈ヲ受タルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

◎第四編（凡三章三十一條）

○第一章　教誨（凡四條）

第九十二條　已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第九十三條　教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開クモノトス

第九十四條　懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖畫等ノ科目中ニ就テ之ヲ教フヘキ學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學校ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閲官吏ノ檢閲ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條　各監房内ニ左ノ諸欵ヲ掲示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時日ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

掲示

一　在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ

一　平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ愼テ容止ヲ正フスヘシ（未決監ニハ此款ヲ除ク）

一　毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ

一　毎朝常用ノ諸器具清潔ニシテ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁圖厠等ヲ掃除スヘシ

一　窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ヘ唾キ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス

監○第八十九條ニ[illegible]○第九十五條マテ

一 監外ニ出ル時其途上ニ於テ公往少者ト交談シ及手真交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス

一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起歩スルヲ禁ス但晝間ハ雖モ放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス

一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戲ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ渉ルガ如キ所爲アルヲ禁ス

一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス（未決監ニハ此欵ヲ除ク）

一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス

一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 日沒後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 獨居ノ者卒然ニ病ヲ發シタルトキハ監房ニリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ

一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ

一 水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時內ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

右ノ諸欵ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ擧ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノナリ

年月日　　某監獄署

◎第二章　賞罰（凡七條）

第九十六條　已決囚獄則ヲ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞罰スヘシ

第九十七條　賞罰セシ者ニハ賞罰セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖（肩臂間ノ表面）ニ方二寸（曲尺）ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ

第九十八條　賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

監○第九十六條○第九十七條○第九十八條

第九十九條　賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第百條　已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求スヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニアラス

第百一條　未決監ニアル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ錄シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第百二條　懲治人第百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

○第三章　懲罰（凡十二條）

第百三條　已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一絕信　親屬故舊ト書信接見ヲ絕ス

二屏禁　晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絕シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三減食　常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四闇室　闇室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第百四條　絕信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食闇室ハ七晝夜ヲ限トス

減食闇室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルヿヲ得

第百五條　懲治人及ヒ十六歲未滿ノ已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處ス

一獨愼　晝夜一室ニ獨居セシム

二減食　常食ノ半以內ヲ減ズ但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第百六條　獨愼ハ七晝夜以內減食ハ三日以內トス

第百七條　未決者及ヒ拘留ノ別ヲ受ケシ者敎令ニ順ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重ヲ量リ第百三條第百五條ニ準擬シ減食スルコトヲ得

第百八條　賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タルトキハ賞表一個又ハ數箇ヲ褫奪ス

第百九條　無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕監○第九十九條ヨリ○第百十三條マテ

罪ヲ犯シタルトキハ三月以上五年以下両脚又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ属シタル鐵索ヲ

二八 其鈇ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鏈ス但監房ニ在ルモ晝間ハ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上二貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ属シ地上ヲ轉ハスモノトス其外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第百十條　減食或ハ闇室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキトキヲ証シテ後之ヲ行フヘシ

第百十一條　屏禁減食闇室又ハ獨慎ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ

第百十二條　罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

第百十三條　假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以下之ヲ拘置スルコトヲ得

〔典獄（檢印）〕懲治人名簿

「横線以下朱書

主檢　書記〔氏名印〕

本籍地　國郡（町村）番地住何某（男弟女妹）

出生地　何國郡（町村）產

族籍　何族

氏名　某

年齡　某年月日生　當何年何月何年何ヶ月

懲治人及ヒ尊属親ノ營業　懲治人ノ營業　主願者タル尊属親ノ營業

親属　父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無

入場ノ年月日　明治何年月日午（前後）第何時入場

入場ノ事狀

身材　長何尺何寸何分肥瘠强弱

容貌　面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、瘢痕（アバタ）、瘤（イボ）、瘻瘤、黑痣、癜風（ナマズ）、天黥（ホクロ）、創瘢（キズアト）ノ類及ヒ音聲ノ高低（アザ）ヲモ細緻ニ具載（コブ）ス

監〇懲治人名簿

教育及ビ宗門	入場ノ時文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 入場後進學ノ景況何宗或ハ宗門不詳
入場中ノ賞罰	明治何年月日ノ何賞罰ヲ行フ
書信贈答ノ月日	何年何月日何國郡(町村)住親屬若クハ朋友ニ書信(發來)
懲治場ニ留置ノ宣告ヲナセシ裁判所	明治何年何月何日某裁判所ニ於テ若干年月日留置ノ宣告
發ニ處斷ヲ經シ者ナル時ハ其事由	犯由ノ大略及ビ某裁判所
事變	明治何年何月病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス
放還	明治何年月日某家ニ放還

(典獄(檢印))未決者名籍

「横線以下朱書」

主檢書記〔氏名印〕

本出族	管地籍 某管下國郡町村)番地住又ハ何某子弟妻女
生	何國郡(町村)產 族籍 何
氏名	某
年齡	年月日生
	當何年何月何年何ヶ月

營業及ビ親屬	營業ヲ詳記スヘシ父母兄弟及ビ配偶著子孫ノ有無
乳兒提携	男或ハ女 收監ノ時何歲何ヶ月
入監ノ年月日時及ビ罪件	明治何年月日午(前後)第何時入監何罪ヲ犯ス
身材	長何尺何寸何分肥瘠强弱
容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口 形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、瘢子、癰瘡、黑痣、瘢風、天鼠蹊、創瘢ノ類及ビ音聲ノ高低テモ細緻ニ具載ス
教育及ビ宗門	文字ヲ識ルヤ或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
入監中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信ノ贈答ヲ許ス月日	明治何年月日何國郡(町村)住親屬若クハ朋友ニ書信(發來)
當該官ノ氏名	裁判長ノ氏名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ臨監セシ官吏ノ氏名
保釋責付	明治何年月日保釋若クハ責付

事變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脫監
終結	明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行又ハ他監押送

（典獄（檢印））已決囚名籍

「横線以下朱書

主檢　書記〔氏名印〕

本籍	某管下國郡（町村）番地住又ハ何某子弟妻女
出生地	何國郡（町村）產
族籍	何
氏名	某
年齡	某年月日生 當何年何月何年何ヶ月
營業及ヒ親屬	營業ヲ詳記メヘシ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無
乳兒提携	男若クハ女收監ノ時何歲何ヶ月父母ニ先チテ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス
刑名及ヒ宣告ノ月日裁判所ノ名稱	何刑若干年月日 明治何年月日何裁判所ニ於テ宣告
收監ノ年月日	明治何年月日午（前後）第何時入監
犯由ノ大略及ヒ犯數	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷ス等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再三犯シタレハ往年何罪ヲ犯シ某裁判所ニ於テ何刑ニ處セラル

身材	長何尺何寸何分肥瘠强弱
容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、瘢痕、黑痣、癤瘤、天皰、創瘢ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス
教育及ヒ宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
入監中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信贈答ノ年月日	明治何年月日何國郡（町村）住親屬若クハ朋友ニ書信（發來）
假出獄免幽閉	明治何年何月何日假出獄或免幽閉
事變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脫監或ハ何罪ヲ犯シ復タ未決監ニ入ル
終結	明治何年月日滿期放免又ハ特赦

假出獄ノ證票

某管下國郡町村番地住又ハ何某子弟妻女

族籍　何

身材　何

名籍ノ樣本ニ倣ヒ詳記スヘシ　某

容貌　何年月日生

上ニ仝シ　明治何年何月何年何ヶ月

罪質犯數

刑名刑期

及ヒ附加刑

何年月日何裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケ何年月日ヨリ執行何年月日滿期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ

約ヲ何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ屆出ヲ此證書ヲ納メタル上住宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限間特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルトキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滯留スルトキハ滯留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住地ニ到着ノ上此證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル事

右之通心得サセ假出獄ノ證票與フル者也

明治何年何月　署　日　印

某監獄署

長官何某　印

△假出獄ヲ受タル者所有金アルトキハ此證書ノ裏面若クハ欄内ニ左ノ二欵ヲ附記スヘシ

一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其居住スヘキ地ノ警察官ニ送リ遣シタル事

一警察官ヘ送リ遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日ニテモ受取得ヘシト雖モ同官ニ於テ正當ノ入用ナリト認定ノ上ニ非レハ一次ニ之ヲ渡サヽルヘキ事

監○假出獄ノ證票○在監人書信紙

四徒服役時限表

月名＼時限	起床	就役	小憩	午飯	罷役	晩飯	還房	服役時間合計
十一月	午前七時〇二分	午前八時〇二分	午前第十時ヨリ十分時間	正午十二時ヨリ五十分時間	午後三時三十分	一時二十八分間	午後四時五十八分	六時二十八分間
十二月	六時三十八分	七時三十八分	第十時ヨリ十五分時間	十二時ヨリ一時間	三時五十分	一時三十二分間	五時二十二分	六時五十七分間
三月	六時〇六分	七時〇六分	仝	仝	四時	一時五十四分間	五時五十四分	七時三十五分間
四月	五時三十二分	六時三十二分	第九時四十分時ヨリ廿分時間	仝	四時三十分	一時五十八分時	六時二十八分	八時三十八分間
五月	五時〇一分	六時〇一分	第九時ヨリ三十分時間	十二時ヨリ一時十分時間	五時	一時五十八分間	六時五十八分	八時五十九分間
六月	四時四十九分	五時四十五分	仝	十二時ヨリ二時間	五時二十分	一時五十四分間	七時十四分	九時〇五分間

監〇四徒服役時間表

〔何管下某〕監獄署〇在監人書信紙〇明治年月日

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ

一書信ノ文句規則ニ背キタルヲアルトキハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルヲアルヘシ

七月	四時五十分	五時五十一分	全上	全上	五時十分	一時五十九分間
八月	五時十六分	六時十六分	全上	全上	四時五十分	一時五十四分間
九月	五時四十八分	六時四十八分	第九時五十分時ヨリ廿分時間	十二時ヨリ一時間	四時二十分	一時五十一分間
十月	六時二十二分	七時二十二分	第十時ヨリ十五分時間	全上	三時四十分	一時四十九分間
十一月	六時五十一分	七時五十二分	全上	全上	三時二十分	一時四十八分間
十二月	七時〇八分	八時〇八分	第十時ヨリ十分時間	十二時ヨリ五十分時間	全上	一時三十二分間

約ヲ日出ノ時刻ヲ以テ起床ノ時刻トナス然ルニ年々季節ニ早晩アリ日々分秒ニ差刻アリ加ルニ東國西國ノ別アリ此ニ由テ何レノ地方ニ於テモ分秒ノ差異ヲキヲ保ツ能ハス故ニ月毎ニ大約之ヲ平均シテ姑ク其起床時刻ヲ登載ス各地ノ司獄官此ノ表ノ區分ヲ準トナシ宜ク裁酌シテ役囚ヲ適スヘシ

右ノ時間ニシテ工ノ時刻ヲ以テ入監ノ時刻ト器ヲ併理シ及ヒ登浴等ヲ爲サシム

約ヲ日沒ナス

○各裁判所ノ位置及管轄區域表

控訴	始審 本廳	始審 支廳	治安	府縣	國名	區郡名
大審院						
東京控訴裁判所	東京		京橋區	東京府	武藏	日本橋區 京橋區
			芝區			芝區 麻布區 赤阪區 荏原 東多摩
			麹町區			麹町區 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區 南豐島
			下谷區			神田區 下谷區 淺草區 南足立 北豐島
			本所區			本所區 深川區 南葛飾
	横濱		横濱	神奈川縣	武藏 相摸	横濱區 久良岐 橘樹 都筑」 三浦 鎌倉 高坐
			小田原		相摸	足柄上 足柄下 大住 陶綾 愛甲
		八王子	八王子		武藏 相摸	(南北西)多摩」 津久井

控訴	始審 本廳	始審 支廳	治安	府縣	國名	區郡名
大審院						
同	千葉		千葉	千葉縣	下總 上總	下埴生 千葉 印旛 南相馬 東葛飾」 上埴生 夷隅 長柄 市原
			木更津		上總 安房	天羽 周准 望陀」 全國四郡
		八日市場	八日市場		下總 上總	海上 香取 匝瑳」 山邊 武射
	水戸		水戸	茨城縣	常陸	(東西)茨城 那珂 久慈 多賀 鹿島ノ内
		土浦	土浦		常陸 下總	新治 筑波 河内 信太 行方 鹿島ノ内」 北相馬
		下妻	下妻		常陸 下總	眞壁」 結城 岡田 豐田 西葛飾 猿島
	栃木		栃木	栃木縣	下野	(上下)足賀 寒川 安蘇 簗田 都利
		宇都宮	宇都宮			河内 芳賀 塩谷 那須
	浦和		浦和	埼玉縣	武藏 下總	中葛飾」 北足立 新庄 入間 高麗 南埼玉 北葛飾
		熊谷	熊谷		武藏	北埼玉 比企 男衾 横見 大里 榛澤 幡羅 兒玉 賀美 那賀
			大宮			秩父

大審院

同

甲府	静岡					前橋		
	遠江							
甲府 谷村	掛川	濱松	沼津	下田	静岡	太田	高崎	前橋
山梨縣	静岡縣					群馬縣		
甲斐	遠江		駿河 伊豆	伊豆	駿河	上野		
	東西)山梨 (東西)八代 (南中北)巨摩	山名 周智 城東 佐野 榛原	豐田 磐田 長上 敷知 引佐 鹿玉 濱名	駿東 富士 君澤 由方 加茂ノ内	庵原 有渡 安部 志田 益津	新田 山田 邑樂	碓氷 (南北)甘樂 馬ノ内猪野川以西	東群馬 (南北)勢多 佐位 那波 利根 吾妻 西群馬ノ内猪野川以東
	南北)都留				那加 加茂ノ内			

表

大審院

同

新潟				長野				
相川 高田	長岡		新發田	上田	松本			
相川 糸魚川 高田 六日町	柏崎 長岡	村上	新發田 新潟	岩村田 上田	福島 大町 上諏訪	飯田 松本	飯山	長野
新潟縣								
佐渡 越後								
全國三郡	西頸城	(東中)頸城	(南中)魚沼	刈羽ノ内	北魚沼 三島 刈羽ノ内	古志	岩船	北蒲原
南北)佐久	新潟區 (西中南)蒲原							
小縣 埴科ノ内 更級ノ内								
西筑摩ノ内	東筑摩ノ内 南北 安曇ノ内							
上伊奈ノ内 下伊奈	上伊奈ノ内諏訪							
下高井 上水内ノ内 下水内	(東西)筑摩ノ内 (南北)安曇ノ内 上伊奈ノ内							
上水内ノ内 上高井 更級ノ内 埴科ノ内								

大審院

控訴：大坂控訴裁判所

始審（本廳）	始審（支廳）	治安	府縣	國名	郡區名
京都		京都	京都府	山城	（上下）京區 愛宕 葛野 宇治ノ内
京都		伏見	京都府	山城	乙訓 紀伊 久世 相樂 綴喜 宇治ノ内
京都		園部	京都府	丹波	船井（南北）桑田
京都		福知山	京都府	丹波 丹後	天田 何鹿」 加佐ノ内
京都	宮津	宮津	京都府	丹後	熊野 竹野 中與謝 加佐ノ内
大坂		中ノ島	大坂府	攝津 河内	西區 北區 西成 島上 島下 豐島 能勢」 讃良 交野 茨田
大坂		天王寺	大坂府	攝津 河内	東區 南區 東成 住吉 大縣 河內 若江 澁川」 高安 志紀ノ内 丹北ノ内 大和川以北
大坂		堺	大坂府	和泉 河内	堺區 全國四郡」 安宿 丹南 八上 古南 石川 錦部 志紀ノ内 丹北ノ内 大川以南
大坂	奈良	奈良	大坂府	大和	添上 添下 山邊 平群 式上 式下 十市 廣瀨 宇陀 高市ノ内 葛下ノ内
大坂	奈良	五條	大坂府	大和	宇智 吉野 葛上 忍海 高市ノ内 葛下ノ内

大審院

同

始審（本廳）	始審（支廳）	治安	府縣	國名	郡區名
神戸		神戸	兵庫縣	攝津	神戸區 八部 莵原 武庫 川邊 有馬
神戸		明石	兵庫縣	播磨	明石 美囊
神戸		篠山	兵庫縣	丹波	多紀 氷上
神戸	洲本	洲本	兵庫縣	淡路	全國二郡
神戸	姫路	姫路	兵庫縣	播磨	多可 加西 印南 神東 神西 飾東 飾西 佐用 宍粟 揖西 揖東 赤穗 加東 加古
神戸	豐岡	豐岡	兵庫縣	但馬	全國八郡
岡山		岡山	岡山縣	備前 備中	岡山區 全國八郡 宇郡 加陽ノ内
岡山		玉島	岡山縣	備中	小田 後月 下道 窪屋 淺口
岡山		高梁	岡山縣	備中	上房 阿賀 哲多 川上 加陽ノ内
岡山	津山	津山	岡山縣	美作	全國十二郡
大津		大津	滋賀縣	近江	滋賀 野州 甲賀 栗田 蒲生 高島
大津	彦根	彦根	滋賀縣	近江	神崎 愛知 犬上 坂田 伊香（東西）淺井
福井		福井	福井縣	越前	南條 今立 丹生 吉田 坂井 足羽
福井		大野	福井縣	越前	大野
福井	小濱	小濱	福井縣	若狹	遠敷 大飯
福井	小濱	敦賀	福井縣	越前 若狹	敦賀」 三方

大審院

名古屋控訴裁判所

控訴審	本廳	支廳	治安府縣	國名	區郡名
名古屋	名古屋		愛知縣	尾張	名古屋區 東西春日井 海東 海西 愛知ノ內
		岡崎			知多 愛知ノ內
					丹羽 葉栗 中島
		熱田			額田 碧海 幡豆 東西 加茂
		一ノ宮			八名 南北 設樂 寶飯 渥美
		岡崎		三河	河曲 鈴鹿 奄藝 安濃 飯高 一志 飯野
		豐橋			桑名 員辨 朝明 三重
安濃津	安濃津		三重縣	伊勢	全國四郡
		四日市		伊賀	多氣 度會」
		上野			全國二郡
	山田	山田		伊勢	南北 牟婁
				志摩	厚見 羽栗 各務 中島 方縣 山縣 武儀 郡上
				紀伊	海西 (上下)石津 多藝 不破 本巢 席田
岐阜	岐阜	岐阜	岐阜縣	美濃	安八 池田 大野
		大垣			加茂 可兒 土岐 惠那
		御嵩		飛彈	全國三郡
		高山			

大審院

同

控訴審	本廳	支廳	治安府縣	國名	區郡名
金澤	金澤		石川縣	加賀 越中	金澤區 河北 石川」
		富山			礦波
		七尾		能登	能美 江沼
				加賀	上新川 婦負
	富山			越中	下新川
					射水
					鹿島 羽咋
					珠洲 鳳至
和歌山	和歌山		和歌山縣	紀伊	和歌山區 伊都 那賀 名草 海部 有田
					日高 (東西)牟婁
		田邊			名東 名西 勝浦 那賀 海部 板野
德島	德島		德島縣	阿波	美馬 三好 麻植 阿波
		脇町			安藝 香美 長岡 土佐 吾川 高岡
					幡多
高知	高知		高知縣	土佐	野間 幡豆 風早(上下)浮穴 和氣 伊豫 溫泉
		中村			宇摩 新居 周布 桑村 越智
					喜多 西宇和
松山	松山		愛媛縣	伊豫	(東南北)宇和
		西條			大內 寒川 三木 山田 香川 小豆 阿野
					ノ內
		大洲			那珂 多度 三野 豐田 鵜足 阿野ノ內
		宇和島			
		高松			
		丸龜			

大審院

廣島控訴裁判所

控訴	始審			區郡名
本廳	支廳	治安府縣	國名	
廣島	尾道	廣島	安藝	廣島區 沼田 安藝 佐伯 山縣 高宮 加茂 豐田
		三次	備後	高田」 三谿 奴可 三上 三次 惠蘇
		尾道	備後	御調 甲奴 世羅 深津 品治 沼田 蘆田 安那 神石
山口		山口	周防	都濃 佐波 吉敷」 美禰
		岩國	長門	熊毛 大島 玖珂
		赤間關	周防	赤間關區 厚狹 豐浦
		萩	長門	大津 阿武 見島
松江		松江	出雲	大原 意宇 能義 秋鹿 島根 仁多
		今市	出雲	神門 出雲 楯縱 飯石」
		濱田	石見	安濃
	濱田	濱田	石見	邦賀 邑智 邇摩 美濃 鹿足
	西鄕	西鄕	隱岐	全國四郡
鳥取		鳥取	因幡	全國八郡」 河村 久米
		鳥取	伯耆	汗入 會見 八橋 日野
	米子	米子	伯耆	

大審院

長崎控訴裁判所

控訴	始審			區郡名
本廳	支廳	治安府縣	國名	
長崎		長崎	肥前	長崎區 北高來 東彼杵 西彼杵ノ內 南高來
	佐賀	島原	肥前	北松浦」 全國二郡
		平戶	壹岐	南松浦 西彼杵ノ內
		福江	肥前	基肄 養父 三根 神崎 佐賀 小城 杵島 藤津
		佐賀	肥前	(東西)松浦
		唐庫	肥前	全國二郡
	嚴原	嚴原	對馬	
福岡		福岡	筑前	福岡區 席田 粕屋 宗像 穗波 早良 嘉麻 上座 下座 高須 御笠 志摩 怡土 那珂
		福岡縣	筑後	全國十郡
	久留米	久留米	豐前	企救 田川 京都 鞍手」
		小倉	筑後	筑城 上毛 遠賀 中津
	小倉	小倉	筑前	
大分		大分	豐後	大分 北海部ノ內 大野ノ內 速見ノ內
		佐賀	豐後	南海部 北海部ノ內 大野ノ內
		竹內	豐後	直入大野ノ內
		杵築	豐後	東西 國東 速見ノ內
		中津	豐後	下毛 宇佐
	中津	豆田	豐後	玖珠 日田

表〇長崎控訴裁判所

大審院

控訴	始審本廳	始審支廳	治安	府縣	國名	區郡名
同	熊本		熊本	熊本縣	肥後	熊本區 飽田 託摩 宇土 合志 (上下)益 城 阿蘇
			山鹿			山鹿 山本 菊池 玉名
			八代			八代 葦北
			人吉			土麻
		天草	天草			天草
	鹿兒島		鹿兒島	鹿兒島縣	薩摩大隅	鹿兒島 穎娃 揖宿 川邊 谷山 阿多 給 黎 日置ノ内」 姶羅 囎唹 肝屬 能毛 大隅 桑原 馭謨
			水引		薩摩大隅	薩摩 高城 伊佐 甑島」 出水 日置ノ内 菱刈
			大島			大島
		宮崎	宮崎		日向	宮崎 兒湯 諸縣ノ内 那珂ノ内
			都城			諸縣ノ内 那珂ノ内
			延岡			臼杵

表〇宮城控訴裁判所

大審院

控訴	始審本廳	始審支廳	治安	府縣	國名	區郡名
宮城控訴裁判所	仙臺		仙臺	宮城縣	陸前	仙臺區 宮城 名取 黑川
			古川			志田 加美 玉造 栗原 遠田
			石卷			桃生 牡鹿 登米 本吉
			大河原		陸前磐城	柴田」 伊具 亘理 田刈
	福島		福島	福島縣	岩代磐城	信夫 安達 伊達」 田村ノ内
			中村		磐城	宇多 行方
		白河	白河		磐城岩代	(東西)白河 石川」 岩瀬 安積ノ内
		平	平		磐城	磐前 磐城 楢葉 菊田 標葉 田村ノ内
		若松	若松		岩代	(南北)會津 耶麻 河沼 大沼 安積ノ内
					越後	東蒲原

控訴	始審	治安	府縣	國名	區郡名
大審院					
弘前控訴裁判所					
函館	弘前 本廳				
	八戸 支廳				
		函館	函館縣	渡島	函館區 亀田 上磯 第部」
		江刺		渡島 後志	檜山 爾志」 久遠 太櫓 瀬棚 奥尻
		福山		膽振	山越
		壽都		後志	島牧 壽都 歌棄 磯谷
		青森	青森縣	陸奥	北津輕
		弘前			三戸 上北ノ内
		五所原			東津 下北 上北ノ内
		河			(西中南)津輕
		八戸			

表○弘前控訴裁判所

大審院															
同															
山形				盛岡				秋田							
酒田	米澤			磐井											
酒田	米澤	新庄	山形	磐井	宮古	盛岡	秋田 本庄	大曲	能代						
山形縣				岩手城			秋田縣								
羽前 羽後		羽前		陸前 陸中	陸中	陸奥 陸中	羽後		陸中 羽後						
東南西北 村山	最上	(東西南 置賜	(東西)田川」 飽海	南北 九戸 西閉伊 (南北)岩手 紫波 稗貫 (東西)和賀」 二戸	(東南中北)閉伊	(東西)磐井 膽澤 江刺」 氣仙	川邊 南秋田 由利	仙北 平鹿 雄勝	山本 北秋田」 鹿角						

附錄 大尾

大審院							
同							
札幌					根室		
札幌	浦川	增毛	小樽	岩內	根室	厚岸	
札幌縣					根室縣		
石狩 振	十勝 高	天塩 北見	後志		根室 千島	釧路 北見	
札幌區 全國九郡」	全國七郡」 全國七郡	全國六郡」 宗谷 枝幸 利尻 禮文	小樽 余市 美國 積丹 高島 忍路 古平 古宇 岩內		全國五郡」 全國八郡」 斜里 網走 常呂 紋別	全國七郡	
幌田 有珠 室蘭 幌別 勇拂 白老 千歲							

明治二十一年五月十七日印刷
明治二十一年六月二日出版

定價金四拾錢

版權所有

編輯兼發行者 東京府平民 西村富治郎 東京々橋區大鋸町四番地

印刷者 新潟縣平民 角張敬四郎 東京々橋區南鍋町壹丁目八番地

發兌元 自由閣 東京々橋區大鋸町四番地

版權登錄

大日本教育會藏書
一五四
一三五號
一冊

035894-000-5

特14-260

刑法治罪法註釈 一名，独案内

西村 英/著

M21

BBP-0489